

## 昇曙夢 著作年譜（稿）[IV]

長谷部 宗吉 編

[編者覚書]

昇曙夢著作年譜（稿）[IV]

[編者覚書]

1. 昇曙夢著作年譜（稿）[IV] は、昭和 20（1945）年から平成 21（2009）年を収録対象としている。昇曙夢は昭和 33（1958）年 11 月 22 日亡くなっている。しかし、逝去後もその著作は復刻版などで刊行されている、その情報も可能な限り収録に努めた。
2. 排列などの凡例については「昇曙夢著作年譜（稿）[I]」（札幌大学女子短期大学部紀要 No.51 2008 年 3 月）の [編者覚書] を参照していただきたい。
3. [I]、[II]、[III] の補遺については、（補遺 I）などの形で [IV] のはじめに載せた。
4. 昇曙夢の著作（単行書）の大半は雑誌、新聞などに発表した論文・訳文をもとに作られている。初出タイトルの変更、内容の追加・修正などが行われている。そのために初出などは十分に把握できておらず、その旨ご了解いただきたい。
5. 昭和戦後期の昇曙夢は活躍するのだが大変苦勞もしている。昭和 24 年には大著『大奄美史（奄美諸島民俗誌）』（鹿児島 奄美社 1949.12.25）を刊行している。そして奄美諸島の復帰運動に奔走する（昭和 28 年 12 月 25 日 本土復帰）。また、子息隆一氏が戦後ソ連に抑留され、帰還したのは昭和 30（1955）年 9 月 2 日のことである（『留守家族—抑留者とその父の記録』東京 文藝春秋新社 1955.12.31 に詳しい）。昭和 30（1955）年 9 月 30 日には喜寿記念出版として『ロシヤ・ソヴェト文學史』を河出書房から刊行する。この著作は昭和 30 年度、第 12 回日本芸術院賞、第 7 回読売文学賞を受賞している。
6. 昇曙夢の戦前の著作・翻訳の多くは文庫化されて出版され、また復刻版も刊行されている。奄美復帰運動関係の文献については深く調査していない。他に色々なものが出ているからである。例えば、右田昭進編『島さばくり 雑記録集（1）』（東京 道之島通信社 1996.8.8）な

ど。また、昭和 26（1951）年 2 月 6 日には参議院外務委員会で参考人として証言しているが採録していない。

毎回のことであるが雑誌に載せられた論文など抜け落ちているもの、また誤りなども多々あると思われるのでご教示いただければ幸いである。とりあえず [IV] で不十分な作業を終えた、ということをご了解いただきたい。

7. この仕事は数多くの方々、数多くの図書館のご協力を得ました。感謝いたします。

そして各地の古書店からも貴重な情報をお教えいただいた。また、今回も札幌大学図書館には多大なご協力をいただいた。記して謝意を表します。

## 昇曙夢 著作年譜（稿）〔Ⅳ〕

- (補遺Ⅰ)「琉球羽衣傳説」こゝろ乃花 9巻1号, 36-38 (1905.1.1)  
 (補遺Ⅰ)「琉球羽衣傳説(續)」  
     こゝろ乃花 9巻2号, 75-77 (1905.2.1)  
 (補遺Ⅰ)「矢張日本人だ(自由劇場印象記 一)」  
     歌舞伎 127号, 47-49 (1911.1.1)  
 (補遺Ⅱ)「バリモント来る」洪水以後 13号, 7 (1916.5.21)  
 (補遺Ⅱ)(訳)「獵の話」トルストイ作  
     新國民 26巻5号, 20-24 (1918.2.5)  
     内容: ミリトンとプーリカ、龜、プーリカと狼  
 (補遺Ⅱ)「現代生活の向上」住宅(住宅改良會)4巻4号, 18-20 (1919.4.1)  
 (補遺Ⅱ)「時代の空氣時代の氣分」  
     第一義 24巻5号, 7-10 (1920.6.1)  
 (補遺Ⅱ)「新思想家の見たる東京市の根本改造と其の市長として最適任者」  
     [アンケート] 改造 3巻1号, 94 (1921.1.1)  
 (補遺Ⅱ)「『戦争と平和』中の二人の女性(隨筆)」  
     女性 3巻6号, 120-125 (1923.6.1)  
 (補遺Ⅱ)「革命後のロシヤ工藝美術」  
     圖案と工藝 117号, 24 (1924.6.1)  
 (補遺Ⅱ)「赤露の映畫と劇と舞踊(評論)」  
     女性 7巻4号, 140-145 (1925.4.1)  
 (補遺Ⅱ)「ロシア美術畫報解説」ブブノーワ女子、昇曙夢選  
     女性 7巻6号, 125-129 (1925.6.1)  
 (補遺Ⅱ)「愛兒命名録」[アンケート]  
     婦人公論 10年6号, 47 (1925.6.1)  
 (補遺Ⅱ)「日曜と家庭」[アンケート]  
     婦人公論 10年7号, 41 (1925.7.1)  
 (補遺Ⅱ)「ピリニヤーク氏の印象」  
     女性 9巻5号, 135-136 (1926.5.1)

- (補遺Ⅲ) (訳) 「藝術社會學 [1]」フリーチェ著  
社會學徒 1巻3号, 10-17 (1927.6.1)  
内容: 原著者ウラヂーミル・フリーチェについて 一、藝術社會學の問題
- (補遺Ⅲ) (訳) 「藝術社會學 (2)」フリーチェ著  
社會學徒 1巻4号, 2-5 (1927.7.1)  
内容: 第二章 藝術の發生
- (補遺Ⅲ) (訳) 「藝術社會學 (三)」フリーチェ著  
社會學徒 1巻5号, 26-30 (1927.8.1)  
内容: 第三章 藝術の社會的機能
- (補遺Ⅲ) (訳) 「藝術社會學 (四)」フリーチェ著  
社會學徒 1巻6号, 9-16 (1927.9.1)  
内容: 第三章 藝術の社會的機能 (承前)
- (補遺Ⅲ) (訳) 「藝術社會學 (五)」フリーチェ著  
社會學徒 1巻8号, 14-18 (1927.11.1)  
内容: 四 藝術的生產の形式
- (補遺Ⅲ) (訳) 「藝術社會學 (6)」フリーチェ著  
社會學徒 1巻9号, 7-11 (1927.12.1)  
内容: 四 藝術的生產の形式 (承前)
- (補遺Ⅲ) (訳) 「藝術社會學 (七)」フリーチェ著  
社會學徒 2巻1号, 8-11 (1928.1.1)  
内容: 第五章 美術の隆盛と衰微
- (補遺Ⅲ) (訳) 「藝術社會學 (八)」フリーチェ著  
社會學徒 2巻2号, 19-22 (1928.2.1)  
内容: 第五章 美術の隆盛と衰微 (續)
- (補遺Ⅲ) (訳) 「藝術社會學 (九)」フリーチェ著  
社會學徒 2巻3号, 17-20, 25 (1928.3.1)  
内容: 第六章 藝術の二つの根本的典型
- (補遺Ⅲ) (訳) 「藝術社會學 (一〇)」フリーチェ著  
社會學徒 2巻4号, 8-10 (1928.4.1)

内容：第六章 藝術の二つの根本的典型（承前）

（補遺Ⅲ）（訳）「藝術社會学（十一）」フリーチェ著

社會學徒 2巻5号, 11-20 (1928.5.1)

内容：第七章 建築、彫刻及び繪畫の霸權の推移、第八章 建築の根本的ニ様式

（補遺Ⅲ）（訳）「藝術社會学（十二）」フリーチェ著

社會學徒 2巻6号, 24-30 (1928.6.1)

内容：第九章 繪畫の二つの典型、第十章 藝術に於ける理想主義的様式と寫實主義的様式

（補遺Ⅲ）（訳）「藝術社會学（十三）」フリーチェ著

社會學徒 2巻7号, 15-21 (1928.7.1)

内容：第十章 藝術に於ける理想主義的様式と寫實主義的様式（承前）

（補遺Ⅲ）（訳）「藝術社會学（一四）」フリーチェ著

社會學徒 2巻8号, 30-34 (1928.8.1)

内容：第十章 藝術に於ける理想主義的様式と寫實主義的様式（承前）

（補遺Ⅲ）（訳）「藝術社會学（一五）」フリーチェ著

社會學徒 2巻9号, 28-37 (1928.9.1)

内容：第十一章 藝術に於ける動物、植物、人物及び事物、第十二章 藝術に於ける勞働

（補遺Ⅲ）（講演）「最近ロシヤ事情」

社會學徒 3巻1号, 4-10 (1929.1.1)

（補遺Ⅲ）（訳）「藝術社會学（一六）」フリーチェ著

社會學徒 3巻1号, 33-35 (1929.1.1)

内容：第十三章 藝術に於ける兒童

（補遺Ⅲ）（訳）「藝術社會学（一七）」フリーチェ著

社會學徒 3巻2号, 25-31 (1929.2.1)

内容：第十四章 裸體の描寫

（補遺Ⅲ）「最近のソヴェート詩壇」

詩神 5巻3号, 26-30 (1929.3.1)

(補遺Ⅲ) (訳) 「藝術社會学 (一八)」フリーチェ著

社會學徒 3巻3号, 19-27 (1929.3.1)

内容: 第十五章 肖像畫、第十六章 宗教畫と風俗畫

(補遺Ⅲ) (訳) 「藝術社會学 (十九)」フリーチェ著

社會學徒 3巻4号, 18-28 (1929.4.1)

内容: 第十七章 風景畫と靜物畫、第十八章 藝術に於ける運動、遠景、光線の諸問題

(補遺Ⅲ) (訳) 「藝術社會学 (二十)」フリーチェ著

社會學徒 3巻5号, 22-30 (1929.5.1)

内容: 第十八章 藝術に於ける運動、遠景、光線の諸問題 (承前)、第十九章 色彩の社會學

(補遺Ⅲ) (訳) 「藝術社會学 (二十一)」フリーチェ著

社會學徒 3巻6号, 1-9 (1929.6.1)

内容: 第二十章 藝術に於ける階級闘争と階級同化

(補遺Ⅲ) (訳) 「藝術社會学 (完)」フリーチェ著

社會學徒 3巻7号, 30-33 (1929.7.1)

内容: 第二十一章 工業資本主義の藝術

完結後、『藝術社會学』(東京 新潮社 1930.4.12) として刊行。

(補遺Ⅲ) 「ゲラーシモフの藝術 (ミハイル・ゲラーシモフ研究號)」

詩神 5巻10号, 24 (1929.10.1)

(補遺Ⅲ) 「意象派とエシェーニン (シエルゲイ・エシェーニン研究號)」

詩神 5巻12号, 2-5 (1929.12.1)

(補遺Ⅲ) (訳) 「變容」エシェーニン作

詩神 5巻12号, 39-40 (1929.12.1)

(補遺Ⅲ) (訳) 「サドーフィエフの詩」

詩神 6巻3号, 40-41 (1930.3.1)

内容: 達成、工場の歌、動亂、先驅者

(補遺Ⅲ) 「クララ・ツエトキンの生活と業績 (近代女性評傳)」

婦人公論 19年10号, 263-270 (1934.10.1)

- (補遺Ⅲ)「トルストイとソヴェート文壇」  
 社会学徒 9巻1号,1-7 (1935.1.1)
- (補遺Ⅲ)「藝術の動向を語る－学徒座談会」出席者：飯塚友一郎、高須芳次郎、橘高廣、圓谷弘、昇曙夢、花柳徳兵衛、松原寛  
 社会学徒 9巻1号,8-36 (1935.1.1)
- (補遺Ⅲ)「社會主義的リアリズムに就て (文藝)」  
 日本大學新聞 241号,4 (1935.6.15)
- (補遺Ⅲ)「琉球の女詩人 恩納ナベと吉屋思鶴」  
 沖縄朝日新聞, (1935.11.10)
- (補遺Ⅲ) [訳]「王様とシャツ」  
 子供と家庭 [7号], 10-11 (1936.3.1)
- (補遺Ⅲ) (訳)「謎 (露西亞)」ヴェレサーエフ [著]  
 むらさき 3巻10号, 53-58 (1936.10.1)
- (補遺Ⅲ)「スタニスラーフスキイの思ひ出 (隨筆)」  
 東寶 59号, 28-30 (1938.11.1)
- (補遺Ⅲ)「詩と文學 戦時座談会」出席者：昇曙夢、高村光太郎、川路柳虹、宇野浩二、(司会) 泉與史朗  
 詩生活 6巻1号 (通巻49冊), 8-26 (1939.1.1)

## 昭和 20 (1945) 年

## 昭和 21 (1946) 年

- (訳) 「寢室争議」アーンゾフ作  
 りべらる 1巻4号, 28-29, 31 (1946.6.1)
- (訳) 『可愛い女』(日本文庫 3 外国文學篇) チェーホフ著 東京 日本社 1946.6.30 6.1, 286p 19cm  
 内容：解説 (昇曙夢著 pp.1-6)、目次 (p.1)、可愛い女 (pp.3-28)、ウァロージャ (pp.29-54)、箱の中の男 (pp.55-81)、チブス (pp.82-95)、曠野 (或る旅行者の話) (pp.96-286)
- (訳) 『トルストイとドストエーフスキイ その生涯と藝術』メレジュコー

フスキイ著 重版 東京 東京堂 1946.8.20 2, 12, 2, 560p 19 cm  
（一九〇九年ベトログラード第四版より）昭和10年刊（改版）の重版

内容：改版に序して（昇曙夢著 pp.1-2）序（昇曙夢著 pp.1-12）  
目次（pp.1-2）緒論（pp.3-20）第一編 人としてのトルストイとド  
ストエーフスキイ（その生涯（pp.21-254）第二編 藝術家としての  
トルストイとドストエーフスキイ（その藝術）（pp.255-546）あ  
とがき・兩文豪の現代に於ける意義（昇曙夢著 pp.547-560）

- (訳) 『戀の凱歌 他四篇 露西亜短篇傑作集』東京 太虚堂書房 1946.9.1  
2, [1], 236p 19 cm 背及び表紙の副題：露西亜傑作短篇集  
内容：はしがき（昇曙夢著 pp.1-2）、目次（p. [1]）小英雄（ドスト  
エーフスキイ著 pp.1-63）、コーカサスの捕虜（トルストイ著 pp.65-  
119）、戀の凱歌（ツルゲーネフ著 pp.121-160）、ピストル（チエーホ  
フ著 pp.161-186）、退屈まぎれ（ゴーリキイ著 pp.187-221）、解説  
（昇曙夢著 pp.223-236）
- (訳) 『どん底 他一篇』（マキシム・ゴーリキイ名作選集1）ゴーリキイ [著]  
昇曙夢、上脇進訳 東京 クララルテ社 1946.9.25 4, [1], 309p 19  
cm  
内容：解説（上脇進著 pp.1-4）、目次（p. [1]）、特高係の一生（上  
脇進訳 pp.1-221）、どん底（昇曙夢訳 pp.223-309）
- (訳) 『懺悔』トルストイ [作] 三芳悌吉画  
家の光 22巻10号, 34-43 (1946.11.1)
- (訳) 『復活 上巻』（新選世界文學集）レフ・トルストイ著 東京 大泉書  
店 1946.11.10 15, 211p 19 cm  
内容：序（昇曙夢著 p.1）、解説（昇曙夢著 pp.2-12）、トルストイ年  
譜（pp.13-15）、復活（上巻）（pp.1-211）
- (訳) 『復活 下巻』（新選世界文學集）レフ・トルストイ著 東京 大泉書  
店 1946.11.20 272p 19 cm
- (訳) 『魔窟 上巻』クープリン著 東京 太虚堂書房 1946.12.20 267p  
19 cm

内容：解説（昇曙夢著 pp.3-10）、前編（pp.11-174）、中編（pp.175-267）

(訳) 【魔窟 下巻】クープリン著 東京 太虚堂書房 1946.12.25 269p  
19 cm

内容：中編（續）（pp.1-119）、後編（pp.121-269）

(訳) 【魔窟 全】クープリン著 東京 太虚堂書房 1946.12.25 10,533p  
19 cm

内容：解説（昇曙夢著 pp.3-10）、前編（pp.11-174）、中編（pp.175-384）、後編（pp.385-533）

## 昭和 22 (1947) 年

(訳) 【復活 上巻】（日本文庫 11 外国文學篇）レフ・トルストイ著 東京 日本社 1947.1.10 296p 19 cm

(注) 奥付では「昭和二十二年九月十五日發賣」とある。

内容：解説（昇曙夢著 pp.1-12）、緒言（ベ・ボドナルスキ著 pp.3-4）、第一編（pp.5-296）

\* 【ろしや更紗】 東京 鎌倉文庫 1947.1.25 [4], 275p 19 cm

内容：目次（pp. [1-4]）、はしがき（pp.1-2）、I. 運命の丘（モスクワのナポレオン）（pp.3-24）、パルチザン物語（pp.25-44）、ユダヤの女性（ベルリン・サロン時代）（pp.45-61）、モスクワの魅力（pp.62-71）、北歐のヴェニス（pp.72-78）、ウクライナ風物誌（pp.79-85）、ロシヤ料理（pp.86-90）、スラヴ歳時記（pp.91-106）、ペトルーシカ（pp.111-120）、農民美術（pp.121-132）、文豪と郷土色（pp.133-147）、ロシヤ精神（pp.148-164）II. 二つの決闘（pp.167-182）、ロシヤ文學の三體（pp.183-189）、チーフホフの思ひ出（pp.190-199）、冬と曠野の詩人（pp.200-207）、巨人シャリヤーピン（pp.208-213）、名優スタニスラーフスキイ（pp.214-219）、バリモント案内記（pp.220-232）、ピリニャークの印象（pp.233-236）、「カペルナウム」と「ヴェイン」（舊露都文士生活の素描）（pp.237-247）、藝術座の今昔（pp.248-259）、日本藝術の鑑賞（pp.260-275）

- \* 『**ゴーリキイの生涯と藝術**』 東京 社會書房 1947.1.30 190p 19 cm  
内容：序 (pp.1-3)、目次 (p.4)、一 ゴーリキイの生涯と藝術 (pp.5-92)、二 ゴーリキイの思想・人物・業績 (pp.93-147)、三 ゴーリキイ逸話篇 (pp.148-156)、四 ゴーリキイ語録 (pp.157-159)、附  
(一) ゴーリキイを訪ねて (pp.160-174)、(二) ゴーリキイと日本文壇 (pp.175-180)、(三) ゴーリキイ年譜 (pp.181-190)

- (訳) 『**トルストイ童話選集**』(世界青少年文學全集) トルストイ著 東京 文化讀書組合出版部 1947.4.15 3, 5, 146p 15 cm  
内容：序 (昇曙夢著 pp.1-3)、目次 (pp.1-5)、**童話篇** (pp.1-43) ヘビの頭と尻尾、細い絲、遺産の分配、サル、サルと豌豆、牛乳、カモと月、埃を浴びたオホカミ、穀倉のネズミ、一番おいしいナシ、タカと二ハトリ、山イヌとゾウ、サギと魚とカニ、水神と眞珠、盲人と牛乳、オホカミと弓、網にかかつたトリ、王様とタカ、王様とゾウ、悪の出所、オホカミと獵夫、二人の百姓、百姓とウマ、二頭のウマ、斧と鋸、イヌと料理人、ウサギと獵犬、カシの樹とクルミの林、メンドリとヒナ、ウヅラとそのメス、メウシとヤギ、キツネの尻尾、**お伽噺篇** (pp.45-82) 二人 [の] 兄弟、大僧正と強盜、國老アブドゥール、孝子の譽、王様と小屋、王様とシヤツ、親馬鹿、邪心の僕、黄金と勞働、金髮王女、**物語篇** (pp.83-146) 棄子、農夫と胡瓜、火事、老馬、乘馬の稽古、柳、プーリカ、プーリカとイノシシ、雉子、ミリトンとプーリカ、龜、プーリカと狼、プーリカの災難、プーリカとミリトンの最後、野兎、熊狩、

\* 『**電報**』 諷刺文學 1巻2号, 18-19 (1947.5.20)

\* 『**窮迫と苦惱の藝術**—ドストエーフスキー—』

會館文化 5巻6号, 17-20 (1947.5.25)

- (訳) 『**マルクス主義藝術論**』ルナチャールスキー著 東京 社會書房 1947.8.25 256p 19 cm  
内容：序 (昇曙夢著 pp.1-3)、原出版者より (革命ロシヤ美術家協會 pp.4-7)、目次 (p.8)、一、藝術とマルクス主義 (pp.11-26) 二、藝術と産業 (pp.27-45) 三、藝術と階級 (pp.46-53) 四、美とその種

類 (pp.54-114) 五、藝術と生活 (pp.115-183) 附、ハウゼンシュ  
 タイン論 (pp.185-256)

(訳) 『小説 小英雄』(手帖文庫 第三部 7) ドストエーフスキイ著 東京  
 地平社 1947.8.30 124p 13 cm

内容：[目次] (p.3)、はしがき (昇曙夢著 pp.5-6)、小英雄 (或る  
 未知の記録より) (pp.7-81)、正直な泥棒 (pp.83-124)

(訳) 『復活 下巻』(日本文庫 12 外国文學篇) レフ・トルストイ著 東  
 京 日本社 1947.9.20 374p 19 cm

内容：第二編 (pp.3-251)、第三編 (pp.252-374)

\* 『ロシヤ文學の鑑賞』 東京 耀文社 1947.10.1 2, [1], 250p 18 cm

内容：序文 (pp.1-2)、目次 (p. [1])、ロシヤ文學と民族性 (pp.1-  
 31)、ロシヤ文學に描かれた女性 (pp.32-60)、ロシヤ・バイロニズ  
 ムとプーシキン (pp.61-83)、寫實主義文學の發達 (pp.84-102)、近  
 代寫實劇の發達と特質 (pp.103-143)、近代都會生活と都會文學  
 (pp.144-153)、ロシヤ文學の悲劇時代 (pp.154-172)、シェストフと  
 その時代 (pp.173-185)、宗教運動と宗教文學 (pp.186-206)、舊ロシ  
 ヤ文學と新ロシヤ文學 (pp.207-250)

\* 『ロシヤ知識階級論 その運動と役割』 東京 社會書房 1947.10.15  
 3, [1], 237p 19 cm

内容：序 (pp.1-3)、目次 ([p.1])、一、ロシヤ知識階級の特質と  
 役割 (pp.1-15)、二、スラヴ主義と西歐主義 (四十年代) (pp.15-  
 43)、三、農奴解放運動 (五十年代) (pp.44-64)、四、「大改革期」  
 と現實主義思想運動 (五十年代後半期) (pp.65-73)、五、虛無主  
 義運動 (六十年代) (pp.73-102)、六、民衆派と「民衆の中へ」の  
 運動 (七十年代) (pp.102-133)、七、恐怖主義運動 (七十年代末)  
 (pp.133-148)、八、知識階級の幻滅と没落 (八十年代) (pp.149-  
 157)、九、ロシヤ・マルクス主義とその運動 (九十年代) (pp.158-  
 169)、十、資本主義の發達と労働運動 (pp.170-196)、十一、學生運  
 動 (pp.196-209)、十二、近代文學と知識階級 (pp.209-225)、十三、  
 帝政末期の革命とその結果 (pp.226-237)

- \* 「現在の日本の社會に於て何が一番古い (封建的) だろうか? 何が一番新しい (民主的) だろうか?」 [アンケート]  
Van (イヴニング・スター社) 2 卷 15 号, 13(1947.11.1)  
内容: (以下全文)  
「ロシア文學研究家 昇 曙夢  
一、末端的諸役所の一部に見る封建的官僚主義の殘滓。  
二、新憲法の最重要項目たる軍備撤廢、戰爭放棄の宣言。」
- \* 「トルストイに於ける宗教に就て」  
知と行 2 卷 12 号, 34-40 (1947.12.1)
- \* 「ロシア文學の傳來と影響 (明治胎成期の思出)」  
ロシア文學研究 2 集, 221-247 (1947.12.10)  
内容: 一、はしがき 二、ツルゲーネフの傳來と影響 三、トルストイの傳來と影響 四、ドストエーフスキイの傳來と影響 五、ゴーリキイとチェーホフの傳來

## 昭和 23 (1948) 年

- (訳) 「可愛い女 (繪物語)」チエホフ作 高橋忠彌畫  
日本小説 2 卷 4 号, 24-27 (1948.4.1)
- \* 「スターリン賞受賞作 (海外文学の現況)」  
龍 (開明社) 1 卷 1 号, 23 (1948.4.1)
- \* 「思ひ出の檳榔樹」 かまくら (かまくら社) 3 号, 1-2 (1948.5.1)
- \* 「トルストイ家の悲劇」  
知と行 3 卷 5 号, 28-40 (1948.5.1)
- \* 「『彼らは祖國のために戦えり』 ショーロホフの近作」  
ソヴェト文化 12 号, 20-23 (1948.6.5)
- (訳) 『闇の力・生ける屍』 (改造選書) トルストイ作 東京 改造社  
1948.7.1 313p 19 cm  
内容: 譯者序 (昇曙夢著 pp.1-7)、目次 (p.9)、闇の力 (五幕) (pp.11-179)、生ける屍 (六幕) (pp.181-313)
- \* 「『戦争と平和』の歴史的背景」

國民の歴史 2巻7号, 28-35 (1948.7.1)

- (訳) 『**検察官**』(改造選書) ゴーゴリ作 東京 改造社 1948.7.10 197p  
19 cm  
内容: 解説(昇曙夢著 pp.193-197)
- \* 『**研究と翻譯の五十年(古稀の齡を迎へて)**』  
ロシヤ文學研究 3集, 100-124 (1948.7.30)
- \* 『**昇先生著作年譜**』 ロシヤ文學研究 3集, 125-128 (1948.7.30)
- (訳) 『**虐げられし人々 上巻**』(日本文庫 31 外國文學篇) ドストエーフ  
スキイ著 東京 日本社 1948.8.10 8, 255p 19 cm  
内容: 解説(昇曙夢著 pp.1-8)、第一編(pp.3-129)、第二編  
(pp.131-255)
- \* 『**初等ロシヤ語講座(全)**』 東京 社會書房 1948.8.10 228p 19 cm  
内容: 序、目次(pp. I-III)、第一講(pp.1-12)、第二講(pp.13-24)、第三講(pp.25-38)、第四講(pp.39-54)、第五講(pp.55-67)、第六講(pp.68-80)、第七講(pp.81-92)、第八講(pp.93-105)、第九講(pp.106-120)、第十講(pp.121-132)、第十一講(pp.133-145)、第十二講(pp.146-160)、第十三講(pp.161-174)、第十四講(pp.175-186)、附録 I 會話資料(pp.189-215)、II 各品詞變化一覽表(pp.216-224)、III 書方の練習(pp.225-228)
- \* 『**ウクライナ美人・花のネッカチーフ(世界の美人)**』小寺健吉絵 昇  
曙夢文 話(話社) 9巻3号, グラビア (1948.9.1)
- \* 『**ドストエーフスキイ研究**』東京 壯文社 1948.9.5 2, 300p 18 cm  
内容: 序(pp.1-2) 目次(pp.1-2) 1 生涯と芸術(pp.3-108)、ドストエーフスキイ評傳(pp.3-19)、ドストエーフスキイの生涯と藝術(藝術上の新しい言葉)(pp.21-80)、ドストエーフスキイの特質と悲劇の意義(pp.81-108)、2 様式と方法(pp.109-159)、ドストエーフスキイの様式と方法(pp.109-123)、ドストエーフスキイの小市民性と國際性(トルストイとドストエーフスキイ)(pp.125-139)、藝術家及び思想家としてのドストエーフスキイ(pp.141-159) 3 批評と解剖 ドストエーフスキイに関する若干の批評(pp.161-200)、一、

藝術作品の眞實性と獨創性 (pp.161-167)、二、ミハイロフスキイの評價について (pp.167-178)、三、メレシユコーフスキイの評價について (pp.178-193)、四、ドブロリユーボフの評價について (pp.193-200)、4 作品研究 (pp.201-297)、一、『虐げられし人々』の研究 (pp.201-211)、二、『罪と罰』の研究 (pp.213-234)、三、『白痴』の研究 (pp.235-258)、四、『悪靈』の研究 (pp.259-278)、五、『カラマーゾフ兄弟』の研究 (pp.279-297)、附録 ドストエーフスキイ年譜 (pp.298-300)

- \* 『トルストイ研究』東京 壯文社 1948.10.10 6, 256p 21 cm  
 内容：序 (pp.1-3)、目次 (pp.5-6)、I トルストイ略傳 (pp.1-5)、人間トルストイ (pp.6-30)、トルストイ家の悲劇 (pp.31-48)、晩年のトルストイ (pp.49-58)、ロシヤの良心 (pp.59-63)、II 「戦争と平和」の歴史的背景と國民的意義 (pp.64-76)、「アンナ・カレーニナ」と女主人公の悲劇 (pp.77-96)、「復活」の社會的意義と藝術的價値 (pp.97-109)、トルストイの藝術とその特質 (pp.110-119)、ロシヤ文學の兩極 (トルストイとドストエーフスキイ) (pp.120-125)、III トルストイの藝術思想 (pp.126-135)、トルストイの教育思想 (pp.136-148)、トルストイの宗教思想 (pp.149-158)、トルストイの無政府主義思想 (pp.159-173)、トルストイの社會思想 (pp.174-187)、トルストイの性格 (ツルゲーネフとトルストイ) (pp.188-199)、日記・語録・逸話 (pp.200-232)、トルストイの現代的意義 (pp.233-238)、トルストイ誕生百年祭に列して (pp.239-252)、附録 トルストイ年譜 (pp.253-256)
- \* 『ロシヤ文藝思潮』東京 壯文社 1948.10.25 [2], 169p 21 cm  
 内容：序 (pp. [1-2])、目次 (pp.1-4)、一、序説 ロシヤ文學の意義及び特質 (pp.5-12)、二、古典主義・主情主義・浪漫主義 (pp.13-24)、三、國民文學の完成と寫實主義の確立 (pp.25-29)、四、自然派・人生派・唯美主義 (pp.30-36) 五、四十年代思潮 (pp.37-43)、六、六十年代思潮 (pp.44-55)、七、民衆主義思潮 (pp.56-61)、八、田園文化の挽歌 (pp.62-67)、九、マルクス主義思潮 (pp.68-74)、

一〇、近代主義思潮 (pp.75-81)、一一、都會文學思潮 (pp.82-90)  
 一二、革命前期の反動的思潮 (pp.91-95)、一三、革命文壇の諸  
 流 (pp.96-116) 一四、プロレタリア文學 (pp.117-124)、一五、革  
 命同伴者文學 (pp.125-130) 一六、社會主義的リアリズム (pp.131-  
 135)、一七、共産黨の文藝政策 (pp.136-143)、附録 ロシヤ文藝批  
 評史概論 一、十八世紀 (pp.144-145)、二、十九世紀初頭 (pp.145-  
 149)、三、ペリンスキイ時代 (pp.149-155)、四、所謂大批評家時代  
 (pp.155-164)、五、二十世紀初頭 (pp.164-167)、六、ソヴェート時  
 代 (pp.167-169)

(訳) 『人は何によつて生きるか』 トルストイ著 東京 大泉書店 1948.11.5  
 4, [1], 194p 19 cm

内容：解説 (昇曙夢著 pp.14)、目次 (p. [1])、人は何によつて生  
 きるか (pp.1-38)、二人巡禮 (pp.39-71)、神は眞實を見給ふ (pp.73-  
 87)、蠟燭 (pp.89-103)、奇遇 (pp.105-120)、主人と下男 (pp.121-  
 194)

(訳) 『虐げられし人々 下巻』 (日本文庫 32 外國文學篇) ドストエーフ  
 スキイ著 東京 日本社 1948.12.5 289p 19 cm

内容：第三編 (pp.3-143)、第四編 (pp.144-289)

## 昭和 24 (1949) 年

(訳) 『コーカサスの俘虜』 (世界少年名作選) トルストイ作 東京 早稲田  
 出版社 1949.1.15 260p 函版 18 cm

内容：はしがき (昇曙夢著 pp.14)、目次 (pp.5-10)、一 小説  
 篇 コーカサスの俘虜 (pp.13-85)、エルマークの遠征 (pp.86-105)、  
 熊狩 (pp.106-124) 二 童話編 (pp.125-260) I へびの頭としっ  
 ぽ、細い糸、遺産の分配、猿、猿と豆、牛乳、鴨と月、ほこりをあ  
 びたおうかみ、穀倉のねずみ、一ばんおいしい梨、鷹と鶏、山犬と  
 象、鷲と魚とかに、水神と眞珠、盲人と牛乳、おおかみと弓、網に  
 かつた鳥、王様と鷹、王様と象、悪の出所、おおかみと獵師、二  
 人の百姓、百姓と馬、二頭の馬、斧とのこぎり、犬と料理人、うさ

ぎと獵犬、かしの木とくるみ林、めんどりとひな、うずらとそのめす、牝牛とやぎ、きつねのしっぽ II 棄子、農夫ときうり、火事、老馬、乗馬のけいこ、柳、プーリカ、プーリカといのしし、雉子、ミリトンとプーリカ、龜、プーリカとおおかみ、プーリカの災難、プーリカとミリトンの最後、野うさぎ III 二人兄弟、大僧正と強盗、國老アブドゥール、孝子の譽、王様と小屋、王様とシャツ、親馬鹿、邪心の僕、黄金と労働、金髪王女

- \* 『ソ連新劇運動の展開』 東京 地平社 1949.4.15 259p 図版 19cm  
 内容：序 (pp.1-4) 目次 (pp.5-9) 一、ソ連新劇運動の展開 (pp.11-63) 一、ロシヤ演劇の正立 二、モスクワ藝術座の自然主義的運動 三、メイエルフォリドの象徴劇と様式化運動 四、「演劇の十月」と記録的演出 五、タイーロフの新寫實主義劇運動 六、エフレイノフの「モノドラマ」運動 二、プロレタリア演劇運動 (pp.64-105) 一、人生の演劇化 二、民衆劇創設の宣言 三、プロレタリア劇創設の試みとその実績 四、革命的ヒロイック劇創設の試みとその実績 五、曲藝喜劇の試み 六、無神論者座の出現と反宗教劇 七、移動劇團と労働青年劇場 八、プロレタリア演劇運動意義 三、演劇革命の任務と方向 (pp.106-119) 一、革命初期の演劇活動 二、革命劇壇の二つの方向 三、新劇運動の四定則 四、先驅の劇場 四、復興期の新劇運動 (pp.120-135) 一、劇壇の右翼と左翼 二、アカデミック劇場の克服 三、革新劇團の試み 四、プロレタリア劇その他 五、舞臺装置の革命 (pp.136-148) 一、舞臺美術家の活動 二、舊傾向への愛着 三、繪畫的装置の魅力 四、大劇場の傳統的背景 五、舞臺装置の新使命 六、舞臺装置の四原則 六、立體派の舞臺美術 (pp.149-169) 一、エクステル女史の背景美術 二、カーメルヌイ座とエクステル女史 三、エクステル女史の舞臺装置 四、エクステル女史の衣裝美術 七、構成派の舞臺装置 (pp.170-179) 一、繪畫的より幾何學的へ 二、新人ヤクーロフの舞臺装置 三、構成主義の支配 八、ソヴェート戯曲の發達 (pp.180-203) 一、新經濟政策時代 二、社會主義的再建時代 三、

獨ソ戰時代 九、革命後の新興舞踊 (pp.204-214) 一、時代と舞踊 二、現代の魔術師ゴレイゾーフスキイ 三、ルーキンの表現主義舞踊 四、パルナフの力學的舞踊 五、女流舞踊手の花形 十、モスクワ雜記 (pp.215-241) 一、劇場建設としてのモスクワ藝術座 二、モスクヴィンとカチャーロフ 三、二つの舞踊劇 四、露都の歌舞伎評判記 附録 ソヴェート映畫論 (三大監督の映畫美學について) (pp.242-259) 一、革命映畫の性格 二、ヴェルトフの機械的美學 三、エイゼンシュテインの辯證法的表現 四、ブドーフキンの情緒主義 五、ソヴェート映畫の新様式

\* 「ロシア人の犯罪心理について」

月刊刑政(特別号)60卷4号(679号), 10-14 (1949.4.20)

\* 「脱獄囚物語」 月刊刑政 60卷8号(683号), 29-32 (1949.8.20)

(訳) 『父と子(上)』(世界新選文庫 6) ツルゲーネフ作 昇直隆訳 東京世界評論社 1949.10.31 189p 16cm

内容: 父と子 上 (pp.1-176)、解説 (昇直隆著 pp.177-189)

(訳) 『虐げられし人々(上)』(世界新選文庫 8) ドストエーフスキイ作 昇直隆訳 東京世界評論社 1949.12.10 8, 184p 16cm

内容: 解説 (昇直隆著 pp.1-8)、虐げられし人々 上 (pp.1-184)

(訳) 『虐げられし人々(中)』(世界新選文庫 9) ドストエーフスキイ作 昇直隆訳 東京世界評論社 1949.12.10 184p 16cm

(訳) 『虐げられし人々(下)』(世界新選文庫 10) ドストエーフスキイ作 昇直隆訳 東京世界評論社 1949.12.10 212p 16cm

(訳) 『父と子(下)』(世界新選文庫 7) ツルゲーネフ作 昇直隆訳 東京世界評論社 1949.12.15 212p 16cm

内容: 父と子 下 (pp.1-175)、戀の凱歌 (pp.177-212)

\* 『大奄美史(奄美諸島民俗誌)』 鹿児島 奄美社 1949.12.25 576p  
肖像 地図 22cm

内容: 序 (pp.1-4)、目次 (pp.5-17)、第一篇 奄美大島の先史時代(石器時代—神武即位) (pp.19-62)、第二篇 奄美時代(上古期)(神武即位—平安朝中期) (pp.63-79)、第三篇 酋長割據時代(中古

期) (平安朝中期—西暦 1266 年) (pp.81-112)、第四篇 琉球服屬時代 (近古期) (西紀 1266 年—1609 年) (pp.113-243)、第五篇 薩藩直轄時代 (近世期) (西紀 1609 年—1871 年) (pp.245-420)、第六篇 明治大正時代 (近代期) (西紀 1871 年—1927 年) (pp.421-549)、附録 奄美諸島年中行事 (pp.551-576)

(訳) 「草原」(『チェーホフ選集 第一巻』東京 小山書店 1949.12.30 所収 pp.53-215)

## 昭和 25 (1950) 年

\* 「ロシア文學 (文藝思潮)」(『世界文藝辭典 西洋篇』東京 東京堂 1950.3.31 所収 pp.50-57)

また、「プーシキン」の項目 (pp.434-436) などを執筆した模様だが、各項目に執筆者名が記されておらず特定はできない。

(訳) 『トラスト D . E ヨーロッパ滅亡物語』イリヤ・エレンブルグ作 東京 民主評論社 1950.4.30 4, 283p 19 cm  
内容：目次 (pp.2-3)、トラスト D . E (pp.1-275)、解説 (作者と作品について) (昇曙夢著 pp.277-283)

(共訳) 『小説 苦悩の中を行く』(現代ロシア文学選集) A. トルストイ原作 富永順太郎共訳 東京 民主評論社 1950.5.30 370 p 図版 19 cm

内容：苦悩の中を行く 第一部 (pp.1-366)、解説 (訳者 pp.367-370)

(訳) 『熊の王子—ロシア童話集』アフナーシェフ著 東京 東京堂 1950.5.31 4, 333p 図版 19 cm 増山暁子絵  
内容：目次 (pp.1-4)、マルコとワシカ (pp.3-24)、馬鹿息子 (pp.25-30)、百姓と王女 (pp.31-46)、びっくりだめし (pp.47-51)、熊の王子 (pp.52-70)、一寸法師 (pp.71-76)、かくれんぼ (pp.77-85)、狐と狼 (pp.86-89)、百姓の謎 (pp.90-93)、羊飼の娘 (pp.94-102)、霜の小父さん (pp.103-114)、意地悪女房 (pp.115-122)、黄金の手籠 (pp.123-126)、ダニーロと白鳥姫 (pp.127-141)、馬鹿の上の馬鹿 (pp.142-151)、黄金の魚 (pp.152-158)、イワンの馬鹿 (pp.159-168)、銅の

國、銀の國、金の國 (pp.169-180)、夢判斷 (pp.181-194)、形見の人形 (pp.195-217)、深山の妖姫 (pp.218-227)、貧乏神 (pp.228-243)、捨子の王子 (pp.244-251)、狐長者 (pp.252-268)、變通自在 (pp.269-281)、一つ眼婆 (pp.282-288)、和尚と下男 (pp.289-298)、正直者と横着者 (pp.299-311)、蛇退治 (pp.312-320)、七人兄弟 (pp.321-328)、解説 (昇曙夢著 pp.329-333)

\* 「日本文學の變遷」小杉天外、昇曙夢著

新小説 5卷6号, 14-18 (1950.6.1)

\* 『ろしや風土誌』東京 日本出版共同 1950.6.25 [3], 8, 391p 写真地図 19cm

内容：序 (pp. [1] - [3])、目次 (pp.1-8)、第一篇 ロシヤ風土の特殊性 (pp.3-28)、一 廣大なる國土、二 單調なる大平原、三 氣候の變化とその影響、四 曠野の自然と民族生活、五 森林の歴史的役割、六 河川網と水利經濟、風土と民俗 (pp.29-63)、一 北國の冬、二 クリスマスと新年、三 遊戯と占ひ、四 雪の美觀、五 春の魅力、六 雪解けの前後、七 野火と放牧、八 復活祭、九 花祭りの頃、十 夏の行樂、十一 白夜の情趣、十二 白夜の生んだ藝術、十三 秋の自然と氣分、十四 モスクワ郊外の秋、趣味と嗜好 (pp.64-139)、一 ロシヤの民謡、二 ロシヤの小唄、三 民族舞踊の特質、四 ウクライナ踊とコーカサス踊、五 戀と歌のジプシイ、六 ロシヤの人形芝居、七 ロシヤの農民美術、八 ロシヤの玩具、ロシヤ名物 (pp.140-168)、一 ウォーツカ萬歳、二 サモワル禮讚、三 蒸風呂享樂、四 トロイカとイズヴォシチク、五 ペーチカとイズバ、六 會堂と辻堂、七 傳説の鐘、八 その他の名物、ロシヤ文豪と郷土色 (pp.169-181)、第二篇 ロシヤの心臓モスクワ (pp.185-193)、水郷レニングラード (pp.194-200)、ウクライナ風物誌 (pp.201-207)、シベリヤの自然 (pp.208-211)、極東ところどころ - 1920年、東部シベリヤ旅行の印象 - (pp.212-227)、一 夜の公園、二 別荘地の一日、三 シヤンタンの女、四 演劇と音樂の夕、五 カムロの幽境、六 ロシヤ人の生活感情、ハルビンより

モスクワまで(車窓日記)(pp.228-246)、新モスクワ風俗(1935年-1939年)(pp.247-283)、一 生活の明朗化、二 ヨールカの復活、三 動く新年風景、四 冬のモスクワ、五 夏のモスクワ、六 お祭り騒ぎのメーデー、七 娯楽面と盛り場、八 芝居好きな民衆、九 女性風俗、十 厨房工場よりスポーツ食堂へ、十一 豪華な地下鐵、市民生活と文化施設生活(pp.284-303)、一 増大する國民所得、二 労働婦人と文化生活、三 コルホーズ農民の生活、四 躍進する文化施設、五 母性の保護と青少年への配慮、六 出版事業と學術界、七 教育界とスポーツ界、第三篇 國民性の特徴(pp.307-342)、一 二元の國、二 極端から極端へ、三 矛盾の性格、四 ヨーロッパ的性情とアジア的性情、五 ルーデン型とピョートル型、六 實際主義とその典型的性格、七 ロシア史の特色、八 野獸性と人間性、九 「トスカ」と憂鬱性、十 現實主義と神祕主義、十一 オブローモフ主義、十二「餘計者」のタイプ、十三 性格悲劇の主人公、十四 ロマンチックな國民、十五 獨創力と同化力、十六 「ニチュエウォ」主義と宿命觀、十七 ボリシェウイズムと國民性の改造、十八 ソヴェート新人のタイプ、宗教と國民生活(pp.343-351)、異端者・岐教徒の世界(pp.352-381)、一 分離派の起源、二 有僧派と無僧派 三 苦行派と跳踊派、四 去勢派とナポレオン崇拜、五 ドゥホボル派と牛乳派その他、六 シュタエフ派とトルストイ、七 歴代政府の態度と對策、教會暦と年中行事(pp.382-391)

\* 「ロシア的ということ」昇直隆著(藏原惟人、神西清編『現代世界文學講座 4 ロシア編』東京 新潮社 1950.7.31 所収 pp.5-20)

(訳) 『小英雄』ドストエーフスキイ作 東京 東京堂 1950.8.10 4, 223p  
18 cm

内容: はしがき(昇曙夢著 pp.1-4) 小英雄(或る未知の記録より)(pp.1-68) 白夜(或る空想家の思出より)(pp.69-181) 正直な泥坊(pp.183-223)

(訳) 『接吻他3篇』(チェーホフ文庫1) チェーホフ [著] 神西清、中村白葉、昇曙夢訳 東京 小山書店 1950.10.30 168p 図版1枚 18

cm

内容：接吻（神西清訳 pp.5-30）、睡い（中村白葉訳 pp.31-38）、  
草原（昇曙夢訳 pp.39-153）、賭（中村白葉訳 pp.154-162）、解説  
（神西清著 pp.163-168）

- (訳) 『サーニン 全』アルツイバーシェフ [著] 東京 青木書店  
1950.11.30 248, 258p 18 cm  
内容：目次 (p.4)、サーニン 上 (pp.5-248)、サーニン 下 (pp.5-  
243) 訳者解説 (pp.249-258)
- (訳) 『サーニン 上』（世界翻譯文學選）アルツイバーシェフ [著] 東京  
青木書店 1950.12.1 258p 19 cm  
内容：サーニン 上 (pp.5-248)、訳者解説 (pp.249-258)
- (訳) 『サーニン 下』（世界翻譯文學選）アルツイバーシェフ [著] 東京  
青木書店 1950.12.5 243p 19 cm  
内容：サーニン 下 (pp.5-243)

## 昭和 26 (1951) 年

- \* 「思い浮かんだまま（刑務所をみて－文壇人の感想－）」  
月刊刑政 62巻2号 (701号), 99-100 (1951.2.20)
- \* 「ソ聯が還さぬ一人息子－冷たい鐵のカーテンに慙へる切々たる父親の  
記録－」 文藝春秋 29巻5号, 196-212 (1951.4.1)  
のち、タイトルを「不安と疑惑の明け暮れ」と変更し、内容も一部  
変更して、『留守家族』（文藝春秋新社 1955.12.31）に収録。  
のち、『文藝春秋』にみる昭和史 第二巻』（東京 文藝春秋  
1988.2.25）所収。
- (訳) 「白夜（或る空想家の思ひ出より）」ドストエーフスキイ作（神西清  
編『ロシア戀愛小説集』（世界戀愛文學名作選）東京 羽田書店  
1951.6.5 所収 pp.203-269)
- (訳) 『ロシア民話集』（少年少女のための世界文學選 20）アフナーシェ  
フ原作 東京 小峰書店 1951.6.10 230p 16 cm  
標題紙、奥付の表示：昇曙夢著

内容：目次 (p.1)、百姓と熊と狐 (pp.5-12)、シェミヤーカーの裁判 (pp.13-19)、獵師の出世 (pp.20-69)、少女とどろぼう (pp.70-93)、宝の釜 (pp.94-103)、夢判断 (pp.104-117)、お日様とお月様とからす (pp.118-124)、飛行船 (pp.125-141)、形見の人形 (pp.142-165)、奇抜な交換 (pp.166-177)、犬ときつつき (pp.178-184)、狐長者 (pp.185-202)、二つの運命 (pp.203-211)、イワンのばか (pp.212-222)、あとがき (昇曙夢著 pp.223-230)

\* 「日本に献げた五十年 - ニコライ大主教の足跡 (学藝)」

毎日新聞 (朝), 2 (1951.7.12)

(訳) 『どん底 他一篇』(マキシム・ゴーリキイ名作選集1) ゴーリキイ [著]

昇曙夢、上脇進訳 東京 クラレテ社 1951.8.30 4, 309p 図版  
18 cm

内容：解説 (上脇進著 pp.1-4)、特高係の一生 (上脇進訳 pp.1-221)、どん底 (昇曙夢訳 pp.223-309)

\* 「奄美大島は訴える 日本上代文化の寶庫」

改造 32 卷 11 号, 80-85 (1951.10.1)

\* 「奄美大島を語る もりあがる民族運動」

人民文学 2 卷 9 号, 25-28 (1951.10.1)

\* 「奄美大島を想う」 毎日情報 6 卷 10 号, 35-41 (1951.10.1)

\* 「序」(高木義夫編著『戻ちたばれ - 奄美大島悲願の記録 -』 東京 五月書房 1951.10.31 所収 pp.7-10)

(訳) 『世界童話全集 第五卷 ろしあ童話集』井伏鱒二等編 初山滋装幀、

山下大五郎装画 東京 河出書房 1951.12.15 265p 図版 19 cm

内容：夢はんだん、マルコとワシカ、かたみの人形、イワンの馬鹿 (以上、アレキサンドル・アフナーシェフ pp.2-75)、黄金の魚 (アレキサンドル・プーシキン pp.77-85)、イリヤ・ムーロメツ、サヅコとワシカ (以上、ピョートル・ポレウオイ pp.87-152)、ドネブルの古塔 (ニコライ・ゴゴリ pp.153-172)、うそつき、犬の友誼、仙人と熊、二羽の鳩 (以上、イワン・クルイロフ pp.173-193)、哲学者、二人の女友達 (以上、イワン・ヘムニーツェ

ル pp.195-206)、熊狩り、エルマークの遠征(以上、レフ・トルストイ pp.207-253) 解説(神西清 pp.255-265)

(訳) 『藝術論』トルストイ [著] 東京 春秋社 1951.12.30 221p 18×11 cm 解説(昇曙夢著 pp.218-221)

## 昭和 27 (1952) 年

\* 『ソヴィエト連邦』(世界の国 12) 東京 国民図書刊行会  
1952.1.30 6, 210p 図版 22 cm  
内容: 目次 (pp.1-6) まえがき (p.1) I. ウラルの東-シベリア概観 (pp.2-24) II. 平原と森林と川-ロシアの自然と民族生活 (pp.25-37) III. 古代から十月革命へ-千年の歴史と共産主義 (pp.38-54) IV. 五箇年計画の成果-ソ連の経済 (pp.55-84) V. 教育と生活 (pp.85-99) VI. コムソモールとピオネール-ソ連の青少年たち (pp.100-112) VII. 改造されて行く自然-戦後の新しい建設計画 (pp.113-125) VIII. 子どもの娯楽と行事 (pp.126-136) IX. モスクワ市風景 (pp.137-156) X. 白夜の都レニングラード (pp.157-167) XI. ウクライナの風土と文化 (pp.168-186) XII. クリミアとコーカサス (pp.187-203) さくいん (pp.205-210)

(訳) 『深淵 他』(創元文庫 B-15) アンドレーエフ著 東京 創元社  
1952.2.20 201p 肖像 15 cm  
内容: 目次 (p. [3])、深淵 (pp.5-27)、霧 (pp.29-95)、地下室 (pp.97-115)、薄暗い遠方へ (pp.117-140)、獣の呪 (pp.141-196)、解説(昇曙夢著 pp.197-201)

(訳) 『毒の園 他』(創元文庫 B-18) ソログープ著 東京 創元社 1952.2.20  
151p 肖像 15 cm  
内容: 目次 (p. [3])、毒の園 (pp.5-36)、かくれんぼ (pp.37-58)、白いお母様 (pp.59-78)、白い犬 (pp.79-89)、悲劇 死の勝利 (pp.91-145)、解説(昇曙夢著 pp.147-151)

(訳) 『ヤーマ(魔窟)(上)』(創元文庫 B-26) クープリン著 東京 創元社  
1952.2.20 243p 肖像 15 cm

内容：目次 (p. [3])、前編 (pp.7-151)、中編 (未完) (pp.153-235)、  
解説 (昇曙夢著 pp.237-243)

- (訳) 『トルストイとドストエーフスキイ—その生活と藝術— (上)』(創元  
文庫 B-13) メレジコーフスキイ著 東京 創元社 1952.3.1 203p  
肖像 15 cm  
内容：目次 (p. [3])、緒論 (p.5-18)、第一編 その生涯 (pp.19-  
198)、解説 (昇曙夢著 pp.199-203)
- (訳) 『ヤーマ (魔窟) (下)』(創元文庫 B-27) クープリン著 東京 創元社  
1952.3.1 248p 肖像 15 cm  
内容：目次 (p. [3])、中編 (承前) (pp.7-114)、後編 (pp.115-248)
- (訳) 『生活の河 他』(創元文庫 B-16) クープリン著 東京 創元社  
1952.3.5 113p 図版 15 cm  
内容：目次 (p.3)、生活の河 (pp.5-40)、泥沼 (pp.41-70)、閑人  
(pp.71-93)、幻覚 (pp.95-108)、解説 (昇曙夢著 pp.109-113)
- (訳) 『戦慄 他』(創元文庫 B-17) アルツイバーシェフ著 東京 創元社  
1952.3.5 129p 肖像 15 cm  
内容：目次 (p. [3])、妻 (pp.5-41)、戦慄 (pp.43-80)、夜 (pp.81-  
101)、ヨセフとヤコブ (pp.103-124)、解説 (昇曙夢著 pp.125-129)
- (訳) 『トルストイとドストエーフスキイ—その生活と藝術— (下)』(創元  
文庫 B-14) メレジコーフスキイ著 東京 創元社 1952.3.15 234p  
肖像 15 cm  
内容：目次 (p. [3])、第二編 その芸術 (pp.5-228)、解説 (昇曙夢  
著 pp.229-234)
- (訳) 『どん底』(世界名作選集) ゴーリキー著 東京 創元社 1952.3.20  
4, [1], 309p 19 cm  
内容：解説 (上脇進著 14 p)、目次 ([1] p)、特高係の一生 (上脇  
進訳 1-221p)、どん底 (四幕) (昇曙夢訳 223-309p)
- (訳) 『決闘 (上)』(創元文庫 B-28) クープリン著 東京 創元社  
1952.3.30 164p 肖像 15 cm  
内容：目次 (p.3)、決闘 [一～九] (pp.5-158)、解説 (昇曙夢著

pp.159-164)

- (訳) 『決闘 (下)』(創元文庫 B-29) クープリン著 東京 創元社  
1952.4.30 197p 肖像 15 cm  
内容：目次 (p.3)、決闘 [十～二十三] (pp.5-197)
- (訳) 『芸術社会学』(創元文庫 E-4) フリーチェ著 東京 創元社 1952.5.30  
234p 図版 肖像 15 cm  
内容：原書の序 (pp.3-5)、原著者から日本訳へ (ヴラヂーミル・フリーチェ著 pp.6-7)、目次 (pp.9-12) 一、芸術社会学の問題 (pp.14-22) 二、芸術の発生 (pp.23-28) 三、芸術の社会的機能 (pp.29-46) 四、芸術的生産の形式 (pp.47-63) 五、美術の隆盛と衰頹 (pp.64-75) 六、芸術の二つの根本的典型 (pp.76-85) 七、建築・彫刻及び絵画の覇権の推移 (pp.86-92) 八、建築の根本的二様式 (pp.93-99) 九、絵画の二つの典型 (pp.100-107) 一〇、芸術に於ける観念論の様式と写実主義の様式 (pp.108-128) 一一、藝術に於ける動物・植物・人物及び事物 (pp.129-134) 一二、藝術に於ける労働 (pp.135-143) 一三、藝術に於ける児童 (pp.144-149) 一四、裸体画 (pp.150-160) 一五、肖像画 (pp.161-166) 一六、宗教画と風俗画 (pp.167-175) 一七、風景画と静物画 (pp.176-185) 一八、藝術に於ける運動・遠近・光線の諸問題 (pp.186-197) 一九、色彩の社会学 (pp.198-206) 二〇、藝術に於ける階級闘争と階級同化 (pp.207-220) 二一、工業資本主義の芸術 (pp.221-227) 解説 (昇曙夢著 pp.229-234)
- (訳) 『復活』トルストイ [著] 東京 創人社 1952.6.1 525p 19 cm  
中扉の副書名：ベ・ボドナルスキイ氏の原作復興版  
内容：解説 (昇曙夢著 pp.1-10)、緒言 (ベ・ボドナルスキイ著 p.12)、トルストイ年譜 (pp.13-16)、第一編 (pp.17-239)、第二編 (pp.240-430)、第三編 (pp.431-525)  
(注) 殆ど同じ内容のものが「世界名作選集」の一冊として創人社 (1953.1.20) からソフトカバーで刊行されている。しかしこの版はハードカバーであり、どこにもシリーズ表記が無い。

- \* 『ロシア文學思潮史』（創元選書 229）東京 創元社 1952.7.30 9, 261, 17p 図版 19 cm  
内容：序（pp.1-3）、目次（pp.5-9）、第一編 古代及び中世文學 第一章 古代スラヴの文化生活（pp.3-5）、第二章 口碑文學（pp.5-12）、第三章 記録文學（pp.12-16）、第二編 近世文學 第一章 啓蒙時代（pp.17-21）、第二章 様式探求時代（pp.21-25）、第三章 浪漫主義時代（pp.25-28）、第四章 寫實主義確立時代（pp.28-46）、第三編 近代文學 第一章 四〇年代（pp.47-66）、第二章 大改革時代前期（五〇年代後半期）（pp.66-96）、第三章 虛無主義時代（六〇年代）（pp.96-112）、第四章 民衆派時代（七〇年代）（pp.112-131）、幻滅時代（八〇年代）（pp.132-144）、第四編 近代主義文學 第一章 社會的勃興期（九〇年代）（pp.145-162）、第二章 デカダン・象徴派の運動（pp.162-176）、第三章 都會文學（pp.176-186）、第四章 革命前期（反動時代）（pp.186-204）、第五編 ソヴェート文學 第一章 戦時共產主義時代（pp.205-208）、第二章 新經濟政策時代（復興期）（pp.208-219）、第三章 轉換時代（pp.219-225）、第四章 社會主義的再建時代（pp.225-235）、第五章 民族主義昂揚時代（pp.235-241）、第六章 社會主義的リアリズム（pp.241-244）、附録 ロシア文學における二つのタイプ—民族的ヒーローと時代のヒーロー—（pp.245-261）、索引（pp.1-17）
- (訳) 『世界文學全集 [第3期] 第19巻』河出書房編 東京 河出書房 1952.11.25 1, 319p 図版 19 cm  
内容：十九世紀續篇 アルツィパーシェフ篇 目次（p.1）、サーニン（pp.1-268）、妻（pp.269-288）、戦慄（pp.289-307）、解説（昇曙夢著 pp.309-319）
- (訳) 『魔窟 上巻』クープリン著 東京 太虚堂書房 1952.12.25 267p 19 cm  
内容：解説（昇曙夢著）作者に就いて（pp.3-5）「魔窟」に就いて（pp.5-10）、前編（pp.11-174）、中編（pp.175-267）
- (訳) 『魔窟 下巻』クープリン著 東京 太虚堂書房 1952.12.25 269p

19 cm

内容：中篇（續）（pp.1-119） 後篇（pp.121-269）

## 昭和 28 (1953) 年

- \* 「二葉亭の翻譯とその影響（ずいひつ）」

ソ連研究 2 卷 1 号, 38-40 (1953.1.1)

- (訳) 『復活』（世界名作選集）トルストイ原作 東京 創人社 1953.1.20  
525p 19 cm

(注) 奥付・広告のシリーズ名：世界名作選

中扉の副書名：ベ・ボドナルスキ氏の原作復興版

内容：解説（昇曙夢著 pp.1-10）、緒言（ベ・ボドナルスキ著 p.12）  
トルストイ年譜（pp.13-16）、第一編（pp.17-239）、第二編（pp.240-430）、  
第三編（pp.431-525）

(注) 創人社（1952.6.1）刊の新装版。

- (訳) 『復活』（學生版世界文學全集）トルストイ [著] 東京 河出書房  
1953.1.25 410p 19 cm

内容：復活（pp.1-398）、解説（昇曙夢著 pp.399-410）

- \* 「ロシヤ文學に現はれた愛の口説」

りべらる 8 卷 3 号, 56-58 (1953.3.1)

- \* 「二葉亭余談」 ソ連研究 2 卷 4 号, 48-52 (1953.4.1)

- (訳) 『サーニン 上巻』（市民文庫 1013-A）アルツイバーシェフ [著]  
東京 河出書房 1953.9.30 242p 肖像 15 cm

内容：一～二十

- \* 「ふるさと奄美大島」キング 29 卷 12 号, 234-235 (1953.10.1)

- (訳) 『サーニン 下巻』（市民文庫 1013-B）アルツイバーシェフ [著] 東  
京 河出書房 1953.10.5 265p 肖像 15 cm

内容：二十一～四十六、あとがき（昇曙夢著 pp.263-265）

- \* 「日本文學と露西亞文學」（日本比較文学会編『比較文学—日本文学を  
中心として』東京 矢島書房 1953.10.20 所収 pp.237-286）

内容：1、ロシヤ文学傳來の初期 2、二葉亭とツルゲーネフ 3、

『あひびき』の翻譯とその影響 4、『ルーゼン』と風葉の『青春』  
5、ツルゲーネフと花袋・藤村 6、プーシキン・レルモンツフ・  
ゴーゴリ（嵯峨の屋・鷗外・敏の訳業） 7、トルストイ文学の移植  
8、トルストイと日本の思想界 9、トルストイと白樺派 10、ト  
ルストイ熱の高潮 11、ドストエーフスキイの伝来 12、『罪と罰』  
の翻譯とその反響 13、『罪と罰』と藤村の『破戒』 14、ドスト  
エーフスキイ時代の出現 15、ゴーリキイと日本文壇 16、チェー  
ホフの傳来とその影響 17、日本の自然主義とロシアのリアリズム  
18、近代ロシア文学と日本の新興文学 19、ロシア革命の影響とマ  
ルクス主義文学 20、新感覺派とアクメイズム 21、ロシア近代劇  
と日本の新劇運動

## 昭和 29 (1954) 年

- \* 「内村先生の思い出」内村鑑三著作集月報 10, 1-3 (1954.1)  
のち、鈴木俊郎編『回想の内村鑑三』(岩波書店 1956.3.26) に再  
録。
- \* 「残る沖縄の人々へ」沖縄タイムス 1544号, 15 (1954.1.1)
- (訳) 「父と子」(『世界文学全集 [第3期] 十九世紀續篇 第18巻 ツルゲー  
ネフ篇』河出書房編 東京 河出書房 1954.3.5 所収 pp.1-180)
- \* 「奄美大島の食物」暮らしの手帖 24号, 148-149 (1954.6.1)
- \* 「ニコライ大主教の思い出」  
ソ連研究 3巻6号, 36-41 (1954.6.1)
- (訳) 『芸術とは何か』(河出文庫 2024) トルストイ著 東京 河出書房  
1954.7.15 209p 15cm  
あとがき(昇曙夢著 pp.206-209)、のち河出文庫特装版(1956.1.15)  
あり
- \* 「ロシア古典の白眉」学鏡 51巻9号, 10-12 (1954.9.5)
- (訳) 「かくれんぼ」ソログープ作(『世界少年少女文学全集 19 ロシア編  
2』東京 創元社 1954.9.25 所収 pp.299-314)
- \* 「解説「かくれんぼ」の作者フョードル・ソログープ」(『世界少年少女

文学全集 19 ロシア編 2] 東京 創元社 1954.9.25 所収 pp.362-363)

## 昭和 30 (1955) 年

(談) 「二重の喜び」 讀賣新聞 (夕) 28292号, 3 (1955.8.31)

「皆様のご好意で一生の大作が出版されることになり、生涯の喜びと  
思っていました、ひとりむすこの隆一がこんど帰国できるとすれ  
ば私にとって、ことしぐらいうれしい年はありません」

\* 『ロシア・ソヴェト文学史』 東京 河出書房 1955.9.30 14, 631, 18p  
22 cm

喜寿記念出版 著者の肖像あり 装幀：有島生馬

(注) 昭和三十年 度 第12回日本藝術院賞、第七回読売文学賞

内容：序 (pp.1-4) 目次 (pp.5-14) 第一編 古代および中世文学  
第一章緒論 (pp.3-6) 第二章 口碑文学 (pp.6-33) 第三章 記録  
文学 (pp.33-47) 第四章 新機運の到来 (pp.47-49) 第五章 古  
代および中世文学の総決算 (pp.49-51) 第二編 近世文学 第一  
章 啓蒙時代 (pp.55-68) 第二章 古典主義支配時代 (pp.68-86)  
第三章 主情主義時代 (pp.87-89) 第四章 浪漫主義時代 (pp.89-  
97) 第五章 写実主義様式の確立 (pp.98-142) 第三編 近代民  
主主義文学 第一章 四〇年代 (ペリンスキイ時代) (pp.145-172)  
第二章 大改革時代前期 (五〇年代後半期) (pp.172-240) 第三  
章 虚無主義時代 (六〇年代) (pp.241-264) 第四章 民衆派時代  
(七〇年代) (pp.264-320) 第五章 幻滅時代 (八〇年代) (pp.320-  
347) 第四編 現代主義文学 第一章 社会的勃興期 (九〇年代)  
(pp.351-384) 第二章 デカダン・象徴派の運動 (pp.384-428) 第  
三章 都会文学と都会詩人 (pp.428-453) 第四章 世紀末の不安と  
悲劇の時代 (pp.453-467) 第五章 革命前期 (帝政末期) (pp.467-  
515) 第六章 帝政末期の劇壇 (pp.516-528) 第五編 ソヴェート文  
学 第一章 序説 ソヴェート文学の特質 (pp.531-541) 第二章  
戦時共産主義時代 (pp.541-556) 第三章 新経済政策時代 (復興

期) (pp.556-587) 第四章 転換時代 (pp.587-598) 第五章 社会主義的再建時代 (pp.599-610) 第六章 民族主義昂揚時代 (独ソ戦時代) (pp.611-617) 第七章 批評界一瞥 (pp.618-620) 第八章 結び 社会主義リアリズム (pp.620-624) 著者年譜 (pp.625-631) 索引 (後付 pp.1-18)

(対談) 「シベリヤの空 ★ 日本の空—私は日ソ交渉の引出ものか」 昇隆一との対談 キング 31 卷 13 号, 80-85 (1955.11.1)

のち、タイトルを「息子をわが家に迎えて」と変更し、『留守家族』(東京 文藝春秋新社 1955.12.31) に収録。

- \* 『留守家族—抑留者とその父の記録』 東京 文藝春秋新社 1955.12.31 211p 18 cm 写真 (自宅に寛ぐ著者と令息隆一氏) あり  
内容: まえがき (附 隆一年譜及び地図) (pp.1-5)、目次 (pp.6-8)、前篇 愛は死の家に通う (昇曙夢) (pp.11-102)、一、悲願ついに報いらる 二、不安と疑惑の明け暮れ 三、同僚はこう伝える 四、わが子の便り 五、息子をわが家に迎えて 後篇 一虜囚の記録—抑留十年の回顧 (昇隆一) (pp.103-209)、一、ウォロシーロフの悪夢 二、回教徒の古都 三、ナホトカの明け暮れ 四、ハバローフスクの受難 五、わが『死の家の記録』 六、超スピードの歸國 [附] ソ連文化の動向—ラーゲルの窓を通して— あとがき (昇隆一) (pp.210-211)

(注) 「五、息子をわが家に迎えて」の p.93 に『キング』昭和三十年八月號所載とあるのは昭和三十年十一月 (31 卷 13 号) の誤りである。

## 昭和 31 (1956) 年

(訳) 『芸術とは何か』(河出文庫 2024) トルストイ著 東京 河出書房 1956.1.15 209p 15 cm

カバーに河出文庫特装版とあり。内容は 1954.7.15 の版と同じ。

- \* 「受賞者の言葉」 讀賣新聞 (朝) 28443 号, 8 (1956.1.30)

(注) 第 7 回読売文学賞の受賞に際して。

- \* 「内村先生の思い出」(鈴木俊郎編『回想の内村鑑三』東京 岩波書店  
1956.3.26 所収 pp.216-220)  
「(前略) 美術ばかりでなく、廣く藝術や詩についても多大の興味を  
もっていられたことは、「愛吟集」の一冊でもわかる。これは小型  
のパンフレットではあるが、先生が平素愛誦しておかなかった西歐  
詩人の詩を譯して、明治卅二三年頃一冊にまとめて出したもので、  
私など夢中に愛讀したものである。特にその巻頭に、詩人の名は忘  
れたが、題詩として掲げられた「詩は英雄の暁の夢なり」という一  
句がひどく気に入って、曙夢という私のペンネームはその中の「暁  
の夢」という語から思いついたものである。今では極めてロマンチ  
ックな筆名であるが、先生に傾倒していた時代の一つの記念でもあ  
る。」(pp.219-220 より)
- \* 「南國風土記(隨筆)」小説公園 7巻6号, 68-72 (1956.6.1)
- (訳) 「祖国のために」(角川文庫 1402) M.A. ショーロホフ著 東京 角川  
書店 1956.6.20 188p 15 cm  
訳者解説 (pp.185-187) 著者・訳者略歴 (p.188)
- (訳) 「深淵」アンドレーエフ作 (小田切秀雄編『發禁作品集』東京 北辰堂  
1956.6.30 所収 pp.215-232)
- \* 「附『深淵』發賣禁止の思ひ出」(小田切秀雄編『發禁作品集』東京  
北辰堂 所収 pp.233-235)  
(注)「文藝市場」2巻11号(1926.11.1)の再録
- \* 「ロシア文学の移植と影響」  
ロシア文学全集月報(修道社) 1, 5-6 (1956.12.15)  
内容: 1 ロシア文学伝来の初期
- \* 「ロシア文学の移植と影響」  
ロシア文学全集月報(修道社) 2, 5-8 (1956.12.25)  
内容: 2 二葉亭とツルゲーネフ(附・ツルゲーネフ年譜)

## 昭和 32 (1957) 年

- \* 「ロシア文学の移植と影響」

ロシア文学全集月報 (修道社) 3, 4-7 (1957.1.15)

内容: 3 『あいびき』の翻訳とその影響

\* 「ロシア文学の移植と影響 (続)」

ロシア文学全集月報 (修道社) 4, 3-4 (1957.2.15)

内容: 4 『ルーゼン』と風葉の『青春』

\* 「ロシア文学の移植と影響 (続)」

ロシア文学全集月報 (修道社) 6, 4-6 (1957.3.30)

内容: 5 ツルゲーネフと花袋・藤村

\* 「エレンブルグ氏に会う (文化)」

讀賣新聞 (夕) 28879号, 3 (1957.4.12)

(訳編) 「エンス・ボートと三人の紳士 (原題 トラストD・E)」イリヤ・  
G・エレンブルグ著

笑の泉 (臨時増刊) 113, 32-61 (1957.4.15)

(注) 「世界艶笑怪奇読本 No.3」

\* 「ロシア・ソヴェト文学史 (普及版)」東京 東京堂 1957.4.20 14,  
631, 18p 22 cm

内容: 序 (pp.1-4) 目次 (pp.5-14) 第一編 古代および中世文学  
第一章 緒論 (pp.3-6) 第二章 口碑文学 (pp.6-33) 第三章 記  
録文学 (pp.33-47) 第四章 新機運の到来 (pp.47-49) 第五章 古  
代および中世文学の総決算 (pp.49-51) 第二編 近世文学 第一  
章 啓蒙時代 (pp.55-68) 第二章 古典主義支配時代 (pp.68-86)  
第三章 主情主義時代 (pp.87-89) 第四章 浪漫主義時代 (pp.89-  
97) 第五章 写実主義様式の確立 (pp.98-142) 第三編 近代民  
主主義文学 第一章 四〇年代 (バリンスキイ時代) (pp.145-172)  
第二章 大改革時代前期 (五〇年代後半期) (pp.172-240) 第三  
章 虚無主義時代 (六〇年代) (pp.241-264) 第四章 民衆派時代  
(七〇年代) (pp.264-320) 第五章 幻滅時代 (八〇年代) (pp.320-  
347) 第四編 現代主義文学 第一章 社会的勃興期 (九〇年代)  
(pp.351-384) 第二章 デカダン 象徴派の運動 (pp.384-428) 第  
三章 都会文学と都会詩人 (pp.428-453) 第四章 世紀末的不安と

悲劇時代 (pp.453-467) 第五章 革命期 (帝政末期) (pp.467-515)  
 第六章 帝政末期の劇壇 (pp.516-528) 第五編 ソヴェート文学  
 第一章 序説 ソヴェート文学の特質 (pp.531-541) 第二章 戦  
 時共産主義時代 (pp.541-556) 第三章 新経済政策時代 (復興期)  
 (pp.556-587) 第四章 転換時代 (pp.587-598) 第五章 社会主義  
 的再建時代 (pp.599-610) 第六章 民族主義昂揚時代 (独ソ戦時  
 代) (pp.611-617) 第七章 批評界一瞥 (pp.618-620) 第八章 結  
 び 社会主義リアリズム (pp.620-624) 著者年譜 (pp.625-631) 索  
 引 (後付 pp.1-18)

- (訳) 『トラストD.E』イリヤ・エレンブルグ著 東京 修道社 1957.4.25  
 283p 肖像 19 cm 解説 (作者と作品について) (昇曙夢著 pp.277-  
 283)
- \* 「ロシア文学の移植と影響 (続)」  
 ロシア文学全集月報 (修道社) 8, 6-8 (1957.4.25)  
 内容: 6 トルストイ文学の移植
- \* 「ロシア文学の移植と影響 (続)」  
 ロシア文学全集月報 (修道社) [9], 6-8 (1957.5.20)  
 内容: 7 トルストイと日本の思想界
- \* 「ロシア文学の移植と影響 (続)」  
 ロシア文学全集月報 (修道社) 10, 5-6 (1957.5.30)  
 内容: 8 トルストイと白樺派、9 トルストイ熱の高潮
- \* 「ロシア文学の移植と影響 (続)」  
 ロシア文学全集月報 (修道社) 11, 6-8 (1957.7.31)  
 内容: 10 ドストエフスキイの伝来
- \* 「ロシア文学の移植と影響 [続)」  
 ロシア文学全集月報 (修道社) 12, 5-8 (1957.8.25)  
 内容: 11 『罪と罰』の翻訳とその反響、12 『罪と罰』と藤村の『破  
 戒』
- (訳) 『ロシア文学全集 第十一巻』東京 修道社 1957.10.31 390p 図版  
 20 cm

内容：サーニン（アルツイバーシェフ著 pp.1-263）、白いお母様（ソログラブ著 pp.303-312）、静かな曙（ザイツェフ著 pp.347-355）、生活の河（クープリン著 pp.357-374）、解説 ミハイル・アルツイバーシェフ（昇曙夢著 pp.375-380）、フョードル・クジミッチ・ソログラブ（昇曙夢著 pp.382-384）、ボリス・ザイツェフ（昇曙夢著 pp.387-388）、アレキサンドル・イヴァーノヴィチ・クープリン（昇曙夢著 pp.388-390）

\* 「ロシア文学の移植と影響（続）」

ロシア文学全集月報（修道社）14, 7-8（1957.10.31）

内容：13 ドストエフスキイ時代の出現

\* 「ロシア文学の移植と影響 [続]」

ロシア文学全集月報（修道社）15, 3-8（1957.11.30）

内容：14 ゴーリキイと日本文壇、15 チェーホフの伝来とその影響

\* 「ロシア文学の移植と影響 [続]」

ロシア文学全集月報（修道社）16, 3-7（1957.12.25）

内容：16 日本の自然主義とロシアのリアリズム、17 ロシア近代主義文学と日本の新興文学

## 昭和 33（1958）年

\* 「世紀の奇書『アンチ・クリスト物語』」

別冊笑の泉 1, 157-159（1958.1.15）

（注）「世界艶笑怪奇読本 No.7」、ウラジミール・ソロヴィヨフの著書

\* 「ロシア文学の移植と影響 [続]」

ロシア文学全集月報（修道社）17, 6-8（1958.1.31）

内容：18 十月革命の影響と日本プロレタリア文学、19 新感覚派とアクメイズム

（訳）『国民教育論』（世界教育宝典 第15回配本）トルストイ著 町田 玉

川大学出版部 1958.2.5 316p 22cm トルストイの肖像あり

内容：訳者まえがき（昇曙夢著 pp.1-2）、目次（pp.3-4）、第一章 公

衆へ (pp.7-8)、第二章 国民教育論 (pp.9-41)、第三章 ヤスナヤ・ポリャーナ学校の性格と特徴 (pp.42-77)、第四章 養育と教育 (pp.78-129)、第五章 進歩と教育の定義 (pp.130-171)、第六章 国民学校設立計画案について (pp.172-219)、第七章 養育雑考 (pp.220-231)、第八章 教科書『児童のための物語』 (pp.232-264)、へびの頭としっぽ、細い糸、遺産の分配、猿、猿と豆、牛乳、鴨と月、ほこりをあびたおおかみ、穀倉のねずみ、いちばんおいしい梨、鷹と鶏、山犬と象、さぎとさかなとかに、水神と真珠、盲人と牛乳、おおかみと弓、網にかかった鳥、王様と鷹、王様と象、悪の出所、おおかみと猟師、二人の百姓、百姓と馬、二頭の馬、斧とのごぎり、犬と料理人、うさぎと猟犬、かしの木とくるみ林、めんどりとひな、うずらとそのめす、牝牛とやぎ、きつねのしっぽ、捨て子、農夫ときゅうり

解説：トルストイの教育思想とその実践について (昇曙夢著 pp.265-280)、付録：トルストイの略伝・逸話・語録 (pp.281-316)

\* 「ロシア文学の移植と影響 [続]」

ロシア文学全集月報 (修道社) 18, 7-8 (1958.2.28)

内容：20 (補遺の一) プーシキン、レールモントフ、ゴーゴリの移植

\* 「ロシア文学の移植と影響 [続]」

ロシア文学全集月報 (修道社) 19, 7-8 (1958.3.31)

内容：21 (補遺の二) ロシア近代劇と日本の新劇運動

\* 「日本上代文化の宝庫 (奄美特集号)」

民俗 (豊中) 2 巻 5 号, 2-10 (1958.11.1)

内容：一、上代に糸を引く民俗 二、古神道に通ずる宗教 三、古語系統の言語 四、萬葉の餘韻におう民謡 五、古式豊かな八月の踊 六、歌垣をしのぶ アブシラナベ 七、萬歳神楽に通ずる諸鈍シバヤ

(訳) 「抒情小曲」メレジコーフスキー著 (『ロシア文学全集 第二十七巻 ロシア詩集 谷耕平編』東京 修道社 1958.12.25 所収 pp.220-

222)

### 昭和 35 (1960) 年

- \* 『世界紀行文學全集 第十巻 ロシア・ソヴェート編』志賀直哉、佐藤春夫、川端康成監修 東京 修道社 1960.6.20 332p 図版 折込地図 23 cm  
内容：東部シベリヤ紀行 (pp.61-69)、黒竜江を溯航して (pp.69-73)、トルストイ誕生百年祭に列して (pp.73-78)  
(注)『露西亞縦横記』(東京 章華社 1934.11.17 刊)からの抜粋

### 昭和 39 (1964) 年

- \* 『奄美大島と大西郷』鹿児島 奄美社 1964.5.1 279p 図版 22 cm  
「再版」とあるが初版は「東京 春陽堂 1927.10.15 6,9,391p 20 cm」であり新たな版と判断できる。内容はほぼ同じ。  
内容：序 (昇曙夢著) (pp.7-10)、目次 (pp.11-17) 一 大島潜居時代 (pp.21-150)、二 徳之島滞在時代 (pp.151-192)、三 沖永良部島幽閉時代 (pp.193-277) 著者の面影・著者略歴・ペンネームの由来 (pp.278-279)
- (訳) 『ロシア・ソビエト文学全集 24』東京 平凡社 1964.11.5 390p  
図版 20 cm  
内容：サーニン (アルツイバーシェフ著 pp.1-263)、白いお母様 (ソログーブ著 pp.303-312)、静かな曙 (ザイツェフ著 pp.347-355)、生活の河 (クープリン著 pp.357-374)、解説 (ミハイル・アルツイバーシェフ 昇曙夢著 pp.375-380)、(フョードル・クジミッチ・ソログーブ 昇曙夢著 pp.382-385)、(ボリス・ザイツェフ 昇曙夢著 pp.387-388)、(アレキサンドル・イヴァーノヴィチ・クープリン 昇曙夢著 pp.388-390)

### 昭和 40 (1965) 年

- \* 『奄美の島々・文化と民俗』鹿児島 奄美社 1965.3.1 151p 図版

19 cm

内容：まえがき (pp.5-6)、目次 (pp.7-8)、第一章 奄美大島とはどんな島か (pp.9-18) 一、奄美大島の位置 二、亜熱帯的風物 三、豊富なる天然資源 四、新日本発展の南進基地 五、奄美大島の文化史的意義 第二章 忍苦の歴史 (pp.18-47) 一、開闢神話と祖神 二、奄美人の主体 三、奄美時代 (上古期) 四、酋長時代 五、琉球時代 六、薩藩時代 七、県政時代 第三章 日本上代文化の宝庫 (pp.48-64) 一、上代に糸を引く民俗 二、古神道に通ずる宗教 三、古語系統の言語 四、万葉の余韻におう民謡 五、古式豊かな八月踊 六、歌垣をしのぶアブシナラベ 七、万歳神楽に通ずる諸純シバヤ 第四章 女人政治と祭事 (pp.64-80) 一、祭政一致と女人政治 二、大島のノロクメ 三、送迎祭の意義と祭式 四、海神祭と送迎祭 五、神降り 六、アシャゲとトネヤ 七、ノロの歴史的役割 第五章 特殊の行事と風習 (pp.80-88) 一、正月の遊戯 二、浜おりの風習 三、勇壮な闘牛 四、ヨナベの風習 五、ユイバレ 六、魅惑的な入墨 第六章 高倉と石敢当 (pp.89-94) 一、南洋文化の移植 二、高倉について 三、高倉の建築様式 四、石敢当について 第七章 方言と歌謡 (pp.94-119) 一、若干の特質 二、ノロ宗と「オモリ」三、民謡の形式と特質 四、民謡の内容と芸術的意義 五、民謡の種類 六、薩藩時代の民謡 七、流れ歌と長歌 第八章 民謡に伝わる悲劇のヒロイン (pp.119-133) 一、カンティミの悲恋 二、ウラトミ母娘の最期 三、鶉の歌 第九章 随筆 (pp.133-149) 一、思い出の檳榔樹 二、奄美大島のたべもの 三、死の漂流記 四、新民謡二篇 (月の白浜・浜千鳥) ロシア文学の泰斗 - 著者の面影と略歴 (武山宮信著 pp.150-151)

## 昭和 43 (1968) 年

- \* 『大奄美史 奄美諸島民俗誌』鹿児島 奄美社 1968.5.15 577p 肖像  
22 cm 明治百年記念出版 (鹿児島 奄美社 1949.12.25 刊の再版)  
内容：序 (pp.1-4)、目次 (pp.5-18)、第一篇 奄美大島の先史時代

（石器時代—神武即位）（pp.19-62）、第二篇 奄美時代（上古期）（神武即位—平安朝中期）（pp.63-79）、第三篇 酋長割拠時代（中古期）（平安朝中期—西紀 1266 年）（pp.81-112）、第四篇 琉球服属時代（近古期）（西紀 1266 年—1609 年）（pp.113-243）、第五篇 薩藩直轄時代（近世期）（西紀 1609 年—1871 年）（pp.245-419）、第六篇 明治大正時代（近代期）（西紀 1871 年—1927 年）（pp.421-548）、附録 奄美諸島年中行事（pp.549-574）、著者近影・著者略歴・著者の面影と名著（pp.575-577）

## 昭和 46（1971）年

- \* 「奄美諸島年中行事」（大藤時彦ほか編『沖繩文化論叢 第二巻 民俗編 I』東京 平凡社 1971.5.13 所収 pp.204-236）  
（注）『大奄美史』（昭和 24 年）からの転載
- \* 「奄美大島の祭礼と能呂の勢力」（大藤時彦ほか編『沖繩文化論叢 第二巻 民俗編 I』東京 平凡社 1971.5.13 所収 pp.366-372）  
（注）『南島論叢』（伊波先生記念論文集編輯委員会編 那覇 沖繩日報社 1937.7.1）からの転載、一部省略。
- （訳）『決定版 ロシア文学全集 29』東京 日本ブック・クラブ 1971.8.1 404p 21 cm 日本ブック・クラブ会員版  
内容：目次（pp.7-8）、サーニン（アルツイバーシェフ著 pp.9-274）、白いお母様（ソログーブ著 pp.315-324）、静かな曙（ザイツェフ著 pp.361-370）、生活の河（クープリン著 pp.371-388）、解説（ミハイル・アルツイバーシェフ 昇曙夢著 pp.389-394）、（フョードル・クジミッチ・ソログーブ 昇曙夢著 pp.396-399）、（ボリス・ザイツェフ 昇曙夢著 pp.401-402）、（アレキサンドル・イヴァーノヴィチ・クープリン 昇曙夢著 pp.402-404）
- （訳）「抒情小曲」メレジコーフスキー著（『決定版 ロシア文学全集 30 ロシア詩集 谷耕平編』東京 日本ブック・クラブ 1971.9.1 所収 pp.234-236）
- \* 「歌謡の発達と特質」（外間守善編『沖繩文化論叢 第四巻 文学・芸

能編』東京 平凡社 1971.9.13 所収 pp.398-412)

(注)『大奄美史』(昭和 24 年)からの転載

## 昭和 50 (1975) 年

- \* 「謎の人二葉亭」(坪内逍遙、内田魯庵編『二葉亭四迷』(近代文学研究資料叢書 5)  
東京 日本近代文学館 1975.3.1 所収 pp. 下ノ 19- 下ノ 27) 易風社 (1909.8.1) の復刻版
- (編) 「巨人国のエフシナひめ・飲んべえのびんぼう神・ひどいめさがし・皇帝とつば屋」昇曙夢編 倉島栄子文 清水耕蔵絵 (『少年少女世界の名作 34 ソビエト編-1』東京 小学館 1975.6.25 所収 pp.99-130)
- \* 『大奄美史 奄美諸島民俗誌』(ユーラシア叢書 8) 東京 原書房 1975.8.11 583, 12p 22 cm  
(注) 奄美社 (昭和 24 年、昭和 43 年刊) の覆刻版  
内容: 序 (pp.1-3) 目次 (pp.5-18) 第一篇 奄美大島の先史時代 (石器時代—神武即位) (pp.19-62) 第二篇 奄美時代 (上古期) (神武即位—平安朝中期) (pp.63-79) 第三篇 酋長割拠時代 (中古期) (平安朝中期—西紀 1266 年) (pp.81-112) 第四篇 琉球服属時代 (近古期) (西紀 1266 年—1609 年) (pp.113-245) 第五篇 薩藩直轄時代 (近世期) (西紀 1609 年—1871 年) (pp.247-423) 第六篇 明治大正時代 (近代期) (西紀 1871 年—1927 年) (pp.425-554) 付録 奄美諸島年中行事 (pp.555-580) 著者近影 (p.581) 著者略歴 (p.582) 著者の面影と名著 (p.583) 解題「大奄美史」とその著者をめぐって (大山麟五郎著 pp.1-12)

## 昭和 51 (1976) 年

- \* 『ロシヤ・ソヴェート文学史』東京 恒文社 1976.2.20 14, 658, 18p 21 cm  
(注) 河出書房版 (1955.9.30 刊) の復刻版、内容は昭和 30 (1955)

年版を見よ

著作年譜 (pp.625-631) ロシヤ・ソヴェート文学史一解説・註釈  
(川崎渕著 pp.633-658)

- \* 「鹿児島県 島の思い出－（かけろま歳時記）－」（池田弥三郎〔等〕  
編『日本民俗誌大系 第十卷 未刊資料Ⅰ』東京 角川書店  
1976.7.10 所収 pp.36-59）  
（注）「旅と傳説」6年5-6,8号（1933年）所収論文の再録

## 昭和 52（1977）年

- \* 『西郷隆盛獄中記 奄美大島と大西郷』坂元盛秋編 東京 新人物往来  
社 1977.3.15 236p 図版 21 cm  
内容：序（昇曙夢著 pp.1-2）、目次（pp.3-8）、第一章 大島潜居時  
代（pp.11-99）、第二章 徳之島滞在時代（pp.101-148）、第三章 沖  
永良部島幽閉時代（pp.149-233）、編者あとがき（坂元盛秋著 p.235）、  
昇曙夢略歴（p.236）
- （訳）『トルストイ童話集』（春陽堂少年少女文庫 世界の名作・日本の名作  
23）トルストイ著 春陽堂書店 1977.3.30 276p 写真 16 cm  
内容：童話編（pp.1-52）へびの頭としっぽ、細い糸、遺産の分配、  
さる、さるとまめ、牛乳、かもと月、ほこりを浴びたおおかみ、穀  
倉のねずみ、いちばんおいしいなし、たかとにわとり、山犬と象、  
さぎと魚とかに、水神と真珠、牛乳の色、おおかみと弓、あみにか  
かった鳥、王さまとたか、王さまと象、悪の出所、おおかみと猟師、  
二人の百姓、百姓と馬、二頭の馬、おのとのこぎり、犬と料理人、  
うさぎと猟犬、かしの木とくるみの林、めんどりとひな、うずらと  
そのめす、め牛とやぎ、きつねのしっぽ おとぎ編（pp.53-94）二  
人の兄弟、大僧正と強盗、国老アブドゥール、孝子のほまれ、王さ  
まと小屋、王さまとシャツ、親ばか、邪心のしもべ、黄金と労働、  
金髪王女 物語編（pp.95-190）捨て子、農夫ときゅうり、火事、老  
馬、乗馬のけいこ、やなぎ、プーリカ、プーリカといのしし、ファ  
ザン、ミリトンとプーリカ、かめ、プーリカとおおかみ、プーリカ

の災難、プーリカとミリトンの最期、野うさぎ、くま狩り、エルマークの遠征 **カフカズのほりよ** (pp.191-267)、原訳の序 (昇曙夢著 pp.268-270) 解説 (原卓也著 pp.271-276)

## 昭和 53 (1978) 年

- \* 「序」(茂野幽考著『奄美大島民族誌』 東京 歴史図書社 1978.6.30 所収 pp.1-5)  
(注) 岡書院 1927.9.15 の復刻版

## 昭和 55 (1980) 年

- (訳) 『ロシアの神話伝説』(世界神話伝説大系 32) 東京 名著普及会  
1980.9.20 17, 4, 348p 22 cm  
(注) 近代社 1928.5.25 刊『神話傳説大系』の改訂版(地域別に編成 変えし復刊)  
内容: ロシアの神話伝説解題 (昇曙夢著 pp.3-17)、目次 (pp.1-4)、  
I 大勇士伝説 (pp.3-18) 1 スウヤトゴル、2 ウオリガ・ブス  
ラエウイチ、3 ミクーラ・セリヤニノーウイチ、4 スフマン・オデ  
イフマンチェウイチ、II 小勇士伝説 (pp.19-119) 1 イリヤ・ム  
ウロメツ、2 ドブルイニヤ・ニキーティチ、3 アリョーシャ・ポ  
ポーウイチ、4 バルダク・ポリシェウイチ、5 エゴリイ・フラブ  
ルイ、6 サツコ・スイチニチ、7 ワーシカ・ブスラエウイチ、8  
勇士の最期、III 神話お伽話 (pp.120-214) 1 王女と水晶の山、2  
化石の国、3 霜のおじさん、4 お日様とお月様と鴉、5 朝と昼と  
夜、6 銅の国、銀の国、金の国、7 怪獣退治、8 狐長者、9 七  
人兄弟、10 鬼の女房、11 運勢、12 貧乏神、13 一つ目婆、14  
黄金の鶏、15 ダニーロと白鳥姫、IV 歴史伝説 (史詩) (pp.215-  
290) 1 スコピン・シュイスキー、2 シチェルカン・ドゥーデン  
チェウイチ、3 ミハイロ・カザリノフ、4 バフメエト王とアウ  
ドーチャ・リヤザアノチカ、5 マルウシャ・ボグスラフカ、6 ア  
ゾフから逃げた三人兄弟、7 ママイ・ベズボージュヌイ、8 涙の

泉、9 イワン雷帝、10 皇帝と壺屋、11 エルマークの遠征、12 ステンカ・ラージン、13 ドゥネーブルの古塔、14 ピョートル一世の平生、15 ピョートル大帝と逃亡兵、16 マゼパの陰謀、V 辺境伝説 (pp.291-348) 1 タマーラ女王、2 エフシナ姫、3 鷲岩

## 昭和 58 (1983) 年

- \* 「序」(文英吉著『奄美大島民謡大観』名瀬 文秀人 1983.7.10 所収 pp.1-5)  
(注) 文英吉著『奄美大島民謡大観』名瀬町(鹿兒島) 南島文化研究社 1933.9.5の「復刻版」、復刻版の標題紙、表紙、背の著者表示：文湖光著

## 昭和 59 (1984) 年

- (訳) 『国民教育論』(西洋の教育思想 15) L.N.トルストイ著 昇曙夢、昇隆一訳 町田 玉川大学出版部 1984.9.1 278p 22 cm 著者の肖像あり  
内容：訳者序(昇隆一著 pp.3-4) 目次(pp.5-7) 訳者解説(pp.9-22) トルストイ略伝(pp.23-33) トルストイに関する逸話(pp.34-44) 一章 読者へ(pp.47-48) 二章 国民教育論(pp.49-76) 三章 ヤスナヤ・ポリャーナ学校の性格と特徴(pp.77-106) 四章 養育と教育(pp.107-150) 五章 進歩と教育の定義(pp.151-186) 六章 国民学校設立計画案について(pp.187-227) 七章 養育雑考(pp.228-237) 八章 教科書『児童のための物語』(pp.238-265) 語録(pp.267-273) トルストイ略年譜(pp.274-278)

## 昭和 61 (1986) 年

- (訳) 「毒の園(幻想翻訳家列伝①昇曙夢)」ソログープ[著] 挿画玉置和代  
小説幻妖 1号,84-100(1986.2.25)  
のち、『書物の王国 5 植物』東京 国書刊行会 1998.5.23 に収

## 録

- \* 「私の信仰告白」 えうみ 15号, 91-95 (1986.12.25)  
 [解説] (外川継男著 pp.95-96)  
 なお、本号に、昇藤子 (昭和28年5月) 著「思ひ出 附・曙夢臨終の記」 (pp.97-122)  
 [解説] (外川継男著 pp.122-123) も併録。

## 昭和63 (1988) 年

- \* 「ソ連が還さぬ一人息子」 (『文藝春秋』にみる昭和史 第二巻) 東京  
 文藝春秋 1988.2.25 所収 pp.173-192  
 文藝春秋 29巻5号 (1951.4.1) の再録  
 のち、文庫化 (文春文庫 1995.7.10) されたが、採録されていない。

## 平成元 (1989) 年

- \* 「ニコライ大主教の生涯と業績」  
 えうみ 17号, 103-117 (1989.4.10)  
 [解説・注] (外川継男著 pp.117-126)

## 平成7 (1995) 年

- \* 「ドストエフスキイの地位、特質、影響」 (井桁貞義、本間暁共編  
 『ドストエフスキイ文献集成 第4巻』東京 大空社 1995.12.22  
 所収 pp.2-6)  
 (注) 「トルストイ研究」3 (3), (1918.3.1) の復刻版  
 (訳編) 『ドストエフスキイ再観 総合研究』東京 大空社 1995.12.22 2,  
 2, 297p 22cm (井桁貞義、本間暁共編 『ドストエフスキイ文献集成  
 第9巻』)  
 (注) ナウカ社 1934.5.16刊の複製

## 平成8 (1996) 年

- (訳) 「検察官」 (『ゴオゴリ全集 3 戯曲集』東京 日本図書センター

1996.3.25 所収 pp.3-205 解説: pp.517-521)

(注) ナウカ社 1934.9.16 刊の複製

(訳) 『(新脩普及版) ツルゲーネフ全集 第四巻』 東京 日本図書センター

1996.3.25 441p 22 cm

(注) 六藝社 1937.2.5 刊の複製

内容: 目次 ([p.1])、父と子 (pp.1-386)、戀の凱歌 (pp.387-426)、  
解題 (pp.427-441)

(訳編) 『ろしあ俚諺集』(続ことわざ研究資料集成 第17巻 ことわざ研究会

編) 東京 大空社 1996.9.28 302p 22 cm

(注) 大倉書店 1920.6.12 刊の複製

内容: 序 (昇曙夢著 pp.1-3)、目次 (pp.1-3)、一 神話に関する  
俚諺 (pp.1-15)、二 基督教に関する俚諺 (pp.17-47)、三 歴史  
に関する俚諺 (pp.49-54)、四 世相に関する俚諺 (pp.55-231)、五  
諷刺に関する俚諺 (pp.233-277)、六 政治に関する俚諺 (pp.279-  
290)、七 哲學に関する俚諺 (pp.291-302)

## 平成 10 (1998) 年

(訳) 「毒の園」フョードル・ソログープ [著] (『書物の王国 5 植物』東

京 国書刊行会 1998.5.23 所収 pp.124-140)

(注) 小説幻妖 1号 (1986.2.25) より

(訳) 「死の勝利」フョードル・ソログープ [著] (『書物の王国 3 植物』

東京 国書刊行会 1998.8.25 所収 pp.142-170)

(注) 『近代劇大系 15』(近代劇大系刊行会 1925.11.13) より

## 平成 12 (2000) 年

\* 「沖永良部島幽閉時代」(「西郷精神の抜粋」(南洲叢書 第八号) 鹿児

島県大島郡和泊町 和泊町西郷南洲顕彰会 2000.3 所収 pp.1-36)

(注) 昇曙夢著 坂元盛秋編 『西郷隆盛獄中記 - 奄美大島と大西郷』  
(新人物往来社 1977.3.15) より

(訳) 「死」ザイツェフ作 (『編年体大正文学全集 第1巻 (大正元年)』東京

ゆまに書房 2000.5.25 所収 pp.127-135)

(注)「新小説」明治45年2月号より

### 平成 13 (2001) 年

- \* 「文学上より見たるロシア革命」(『編年体大正文学全集 第6巻(大正6年)』東京 ゆまに書房 2001.3.25 所収 pp.454-457)  
(注)「早稲田文学」大正6年5月号より

和田芳英著『ロシア文学者昇曙夢 & 芥川龍之介論考』大阪 和泉書院  
2001.11.25 図版 v, 310p 22 cm

内容：目次 (pp.i-v)、第一章 ロシア文学とともに歩んだ人生－明治・大正・昭和－ (pp.1-85)、第四節 (pp.35-85) には「昇曙夢著 訳書年譜考－燦然と輝く不滅の訳業」がある。第二章 昇曙夢事歴 (pp.87-101)、第三章 芥川初期作品の比較文学的考察Ⅰ (pp.103-245)、第四章 芥川初期作品の比較文学的考察Ⅱ (pp.247-300)、付章 芥川龍之介研究のために－解題二篇－ (pp.301-304) あとがき (pp.305-310)

### 平成 15 (2003) 年

- \* 『「昇曙夢先生を偲ぶ会」議事録－全国奄美連合総本部委員長・復帰対策委員長－奄美群島日本復帰50周年記念』

[三鷹] [昇曙夢先生を偲ぶ会事務局] 2003.10.20 一冊 31 cm

- \* 「フューチャリズム」(日高昭二 五十嵐利治監修『海外新興藝術論叢書 刊本篇 第一巻』東京 ゆまに書房 2003.11.25 所収 pp.149-160)

(注)「露国現代の思潮及文学」(大正四年二月五日 新潮社)より

- \* 「新ロシア舞台美術大観」(日高昭二ほか監修『海外新興藝術論叢書 刊本篇 第十一巻』東京 ゆまに書房 2003.11.25 所収 pp.1-148)  
(注)「新ロシア・パンフレット 第八編」(昭和二年五月五日 新潮社)より

## 平成 17 (2005) 年

(談) 「狂に近きロシヤの未來派 (最近思潮)」(日高昭二ほか監修『海外新興藝術論叢書新聞・雑誌篇 第一卷』東京 ゆまに書房 2005.1.25 所収 pp.190-192)

(注)「早稻田文學」(大正三年六月)より

\* 「人生の未來派 (最近來朝せる露國詩人ゴリツシュミット君)」(日高昭二ほか監修『海外新興藝術論叢書 新聞・雑誌篇 第二卷』東京 ゆまに書房 2005.1.25 所収 pp.109-114)

(注)「文章世界」15卷3号(1920.3.1)より

\* 「美術の露西亞に新しい産業派 [一] - [三]」(日高昭二ほか監修『海外新興藝術論叢書 新聞・雑誌篇 第六卷』東京 ゆまに書房 2005.1.25 所収 pp.14-16)

(注)「朝日新聞」(大正十四年一月三十一日、二月三、四日)より

## 平成 19 (2007) 年

(訳) 『零落者の群』(昭和初期世界名作翻訳全集 147) ゴーリキイ著 東京 ゆまに書房 2007.2.15 4, 112p 19cm

(注)『世界名作文庫 311』(東京 春陽堂 1932.9.1)の復刻版

菊池裕子著「昇曙夢書誌ノート」

地域文化論叢 (沖縄国際大学) 9号, 97-101

(2007.3.31)

\* 「大奄美史 (抄)」(松下志明編『南西諸島史料集 第一卷』鹿児島 南方新社 所収 pp.29-32)

(注)『大奄美史』(奄美社 1949)の「十四、南島研究の先覺者」の内、pp.505-508「白野夏雲」と「田代安定」の部分

## 平成 20 (2008) 年

\* 『2007年 昇曙夢歿後50年を偲ぶシンポジウム『昇曙夢の生涯と業績を語る』記念誌』昇曙夢歿後50年を偲ぶシンポジウム実行委員会編 刊 平群町 (奈良県) 2008.1.30 57p 30cm

- (訳) 『虐げられし人々 前編』(昭和初期世界名作翻訳全集 173) ドストエフスキイ著 東京 ゆまに書房 2008.2.25 4, 10, 291p 19 cm  
 (注)『世界名作文庫 303』(東京 春陽堂 1932.9.5)の復刻版
- (訳) 『虐げられし人々 後編』(昭和初期世界名作翻訳全集 174) ドストエフスキイ著 東京 ゆまに書房 2008.2.25 4, 336p 19 cm  
 (注)『世界名作文庫 304』(東京 春陽堂 1932.9.5)の復刻版
- \* 『大奄美史 奄美諸島民俗誌』 東京 原書房 2008.10.20 583, 12p 22 cm 583, 12p 22 cm  
 (注)「原書房 1975.8.11 ユーラシア叢書 8」のオンデマンド版  
 内容：序 (pp.1-3) 目次 (pp.5-18) 第一篇 奄美大島の先史時代(石器時代—神武即位) (pp.19-62) 第二篇 奄美時代(上古期)(神武即位—平安朝中期) (pp.63-79) 第三篇 酋長割拠時代(中古期)(平安朝中期—西暦 1266 年) (pp.81-112) 第四篇 琉球服属時代(近古期)(西紀 1266 年—1609 年) (pp.113-245) 第五篇 薩藩直轄時代(近世期)(西紀 1609 年—1871 年) (pp.247-423) 第六篇 明治大正時代(近代期)(西紀 1871 年—1927 年) (pp.425-554) 付録 奄美諸島年中行事 (pp.555-580) 著者近影 (p.581) 著者略歴 (p.582) 著者の面影と名著 (p.583) 解題「大奄美史」とその著者をめぐって(大山麟五郎著 pp.1-12)

## 平成 21 (2009) 年

- \* 『復刻 大奄美史(奄美諸島民俗誌)』 鹿児島 南方新社 2009.8.20 xiii, 576p 22 cm  
 (注)『大奄美史(奄美諸島民俗誌)』(鹿児島 奄美社 1949.12.25)の復刻版  
 内容：復刻序 奄美研究の古典(山下欣一著 pp.i-vii)、復刻序 苦難の長い旅路(田代俊一郎著 pp.ix-xiii) 序 (pp.1-4)、目次 (pp.5-17)、第一篇 奄美大島の先史時代(石器時代—神武即位) (pp.19-62)、第二篇 奄美時代(上古期)(神武即位—平安朝中期) (pp.63-79)、第三篇 酋長割拠時代(中古期)(平安朝中期—西暦 1266 年)

(pp.81-112)、第四篇 琉球服屬時代（近古期）（西紀 1266 年—1609 年）(pp.113-243)、第五篇 薩藩直轄時代（近世期）（西紀 1609 年—1871 年）(pp.245-420)、第六篇 明治大正時代（近代期）（西紀 1871 年—1927 年）(pp.421-549)、附録 奄美諸島年中行事（pp.551-576）

田代俊一郎著『**原郷の奄美**－ロシア文学者昇曙夢とその時代』福岡 書肆侃侃房 2009.11.3 215p 図版 19 cm  
内容：もくじ（pp.1-4）、原郷の奄美－ロシア文学者昇曙夢とその時代（pp.5-135）思い出の記（昇藤子著 pp.137-182）、「思い出の記」について（田代俊一郎著 pp.183-184）、跋（長縄光男著 pp.185-190）、昇曙夢略年譜（和田芳英編 pp.190-209）、参考文献（pp.210-213）、あとがき（pp.214-215）